



* 0031362000 *

3

0031362-000

328.346-N943k

関税法大意

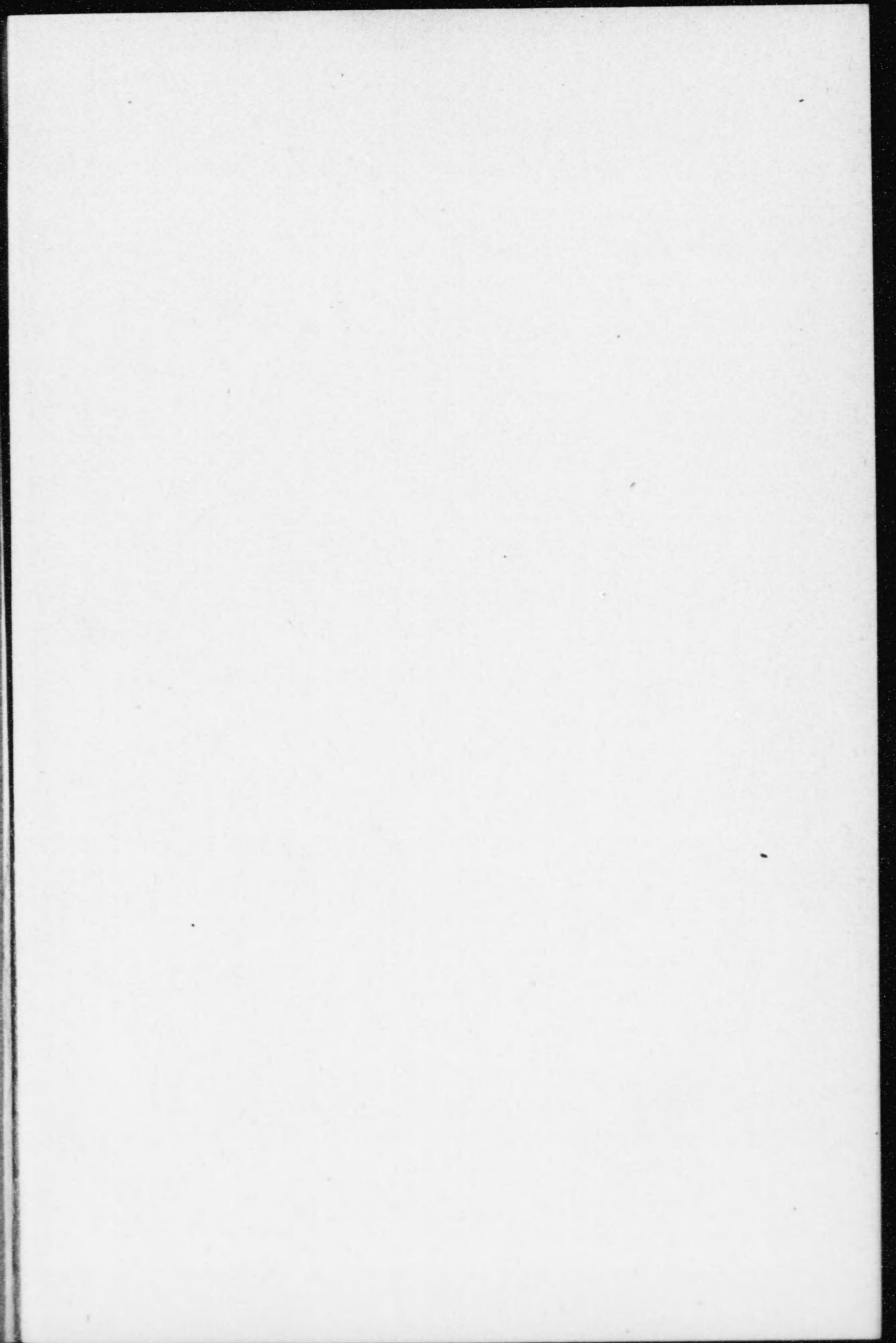
野村次夫・著

政経書院

1934

AEB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年5月15日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。



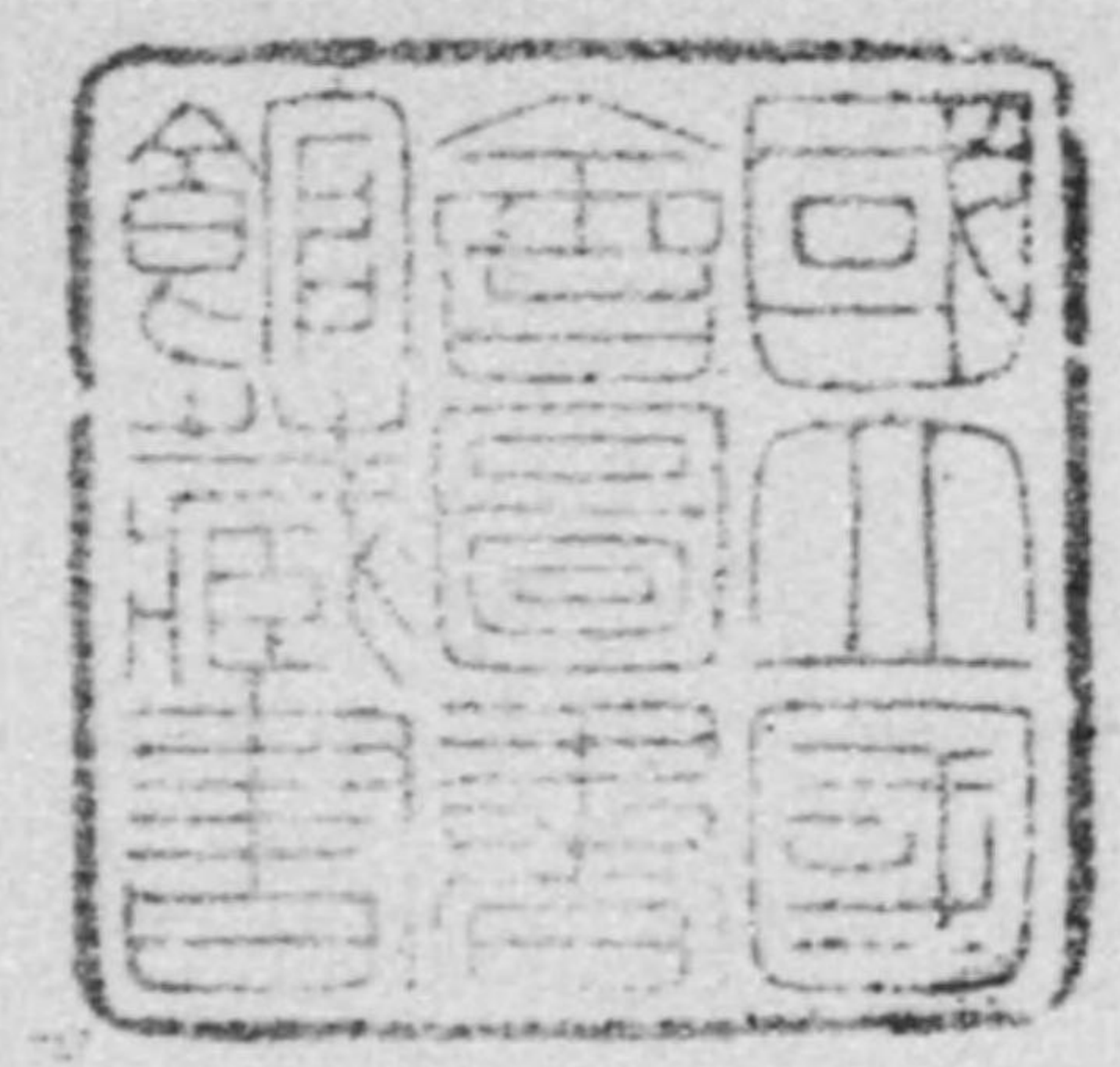
野村次夫著

關稅法大意

會社資
政經書院

328.346
N943k

(346)



468405

序

- 一、余ハ現ニ學校ニ於テ主トシテ商法學ヲ講スルモノナルカ、嘗テ大藏省主税局ニ職ヲ奉スルコト五年、專ラ關稅ニ關スル事務ニ從事セシ關係上、別ニ久シク商科ニ於ケル關稅倉庫ニ關スル講義ヲ兼擔シ以テ今日ニ及ヘリ。
- 二、前記關稅倉庫ノ講義ニ於テ余ハ學生筆記ノ勞ヲ省キ且ツ講義ノ進捗ヲ計ル爲數年來豫メ簡單ナル講義案ヲ謄寫刷トシテ學生ニ配布スルヲ常トセリ。本書ハ右謄寫刷講義案ニ代リ本年以後同一ノ目的ニ使用センカ爲メ刊行シタルモノナリ。序テナカラ余ハ右講義案ノ一部ヲ稍一般向ニ書キ改メ雜誌「自由通商」(昭和三年十月創刊)第一卷第一、第二及第三號、第二卷第一及第二號ニ連載セシコトアリ。
- 三、本書題シテ「關稅法大意」ト稱スルモ、將來貿易ノ實務ニ從事スルコトアルヘキ商科ノ學生ニ關稅ニ於ケル關稅ノ賦課其他輸出入ニ關スル手

序

一

續ノ一般ヲ知ラシムル爲メ、關稅法、關稅定率法、保稅倉庫法、保稅工場法、噸稅法、各種消費稅法、稅關貨物取扱人法等ノ主要關稅法規ヲ通シテ本邦關稅制度ノ内容ヲ論究シタルモノニシテ、一々法條ニ根據ヲ求メタリトハ雖其ノ叙述一般の、機能的ニシテ各個法條ノ解釋、分析的研究ニ及ハス。從テ正確ナル意義ニ於ケル行政法學の見地ヨリスル關稅行政法論トハ稱シ得サルヘク又本書前掲ノ目的ニ鑑ミ著者ニ於テモ之ヲ意圖スルモノニ非サルナリ。

四、

本書ノ内容ヲ執筆シタルハ余カ前記講義ヲ始メテ擔任シタル昭和二年ナレトモ、其後毎年ノ講義ニ際シ法規ノ改正其他氣付キタル個所ハ其ノ都度訂正シ、今回之ヲ印刷ニ附スルニ當リテモ亦若干ノ加筆訂正ヲ施シタリト雖、法規ノ改正頻繁ナル稅法ノコトトテ時ニ舊法ノ儘叙述セル部分モアリ又所論正鵠ヲ得サルトコロモアルヘシ。此點一ニ讀者ノ寬恕ヲ乞ハントス。

五、

本書ノ執筆ニ當リテ余カ前記實務上ノ經驗ノ約立^後チタルコトハ必ス

シモ否定セスト雖、更ニ先學諸氏ノ著書論文ニ依リ啓發セラレタルコト一層大ナルモノアリ。茲ニ記シテ深厚ナル謝意ヲ表ス。只茲ニハ詳細ナル參考文獻ヲ掲クルコトハ省略シ、學生諸氏ノ手ニ入り易キ若干ノ參考書ヲ本文中適當ナル個所ニ掲クルニ止メタリ。猶當初ノ豫定ニテハ本文掲クルトコロノ各種例外的稅率ノ前提タル本邦輸入稅表ヲ附録トシテ掲クル筈ナリシカ、印刷ヲ急ク必要上之ヲ割愛セリ。讀者ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ參照セラレンコトヲ希望ス。

昭和九年四月二十二日

京都・下鴨ノ寓居ニテ

野村 次 夫 識

目次

緒	序	一
言	一	一
第一章	關稅ノ概念	一三
第二章	開港	二五
(一)	關稅地域	二七
(二)	港灣	四一
(三)	開港	四三
第三章	稅關	四七
(一)	小沿革	四九
(二)	關稅行政機關	五〇
(三)	稅關ノ組織	五四
目次		一

(四) 税關所在地並税關管轄區域…………… 五

(五) 税關 官吏…………… 六

第四章 船舶ノ入出港ト噸税

(一) 船…………… 六

(二) 船舶ノ入出港…………… 七

(三) 噸税…………… 七

(四) 航空機…………… 八

第五章 通關手續

(一) 通關手續…………… 八

(二) 税關貨物取扱人…………… 九

第六章 輸入ノ許否ト關稅ノ賦課

第七章 關稅ノ免除及拂戻

(一) 關稅ノ免除…………… 一五

(二) 關稅ノ免除…………… 一七

(二) 關稅ノ拂戻

第八章 輸出入品ト消費稅

(一) 砂糖消費稅…………… 一九

(二) 織物消費稅…………… 一九

(三) 骨牌稅…………… 二〇

(四) 酒稅…………… 二〇

(五) 清涼飲料稅…………… 二〇

第九章 異議及訴願

(一) 概說…………… 二二

(二) 異議…………… 二二

(三) 訴願…………… 二七

第十章 關稅ノ徵收ト貨物ノ收容

(一) 概說…………… 三三

(一)	納稅義務者	三三三
(二)	關稅ノ徵收方法	三三四
(三)	關稅ノ擔保	三三五
(四)	納稅義務ノ消滅	三三七
(五)	貨物ノ收容	三三七
(六)		

第十一章 倉庫及倉庫立法概説

(一)	倉庫ノ概念	三三三
(二)	倉庫ノ機能	三三六
(三)	倉庫ノ發達要件	三五九
(四)	倉庫ノ沿革	三四三
(五)	倉庫ノ種類	三四八
(六)	倉庫立法	三五二

第十章 保稅倉庫

(一)	概説	三六一
(二)	保稅地域	三六四
(三)	保稅倉庫ノ概念	三六五
(四)	私設保稅倉庫ノ設立及廢止	三六七
(五)	藏置貨物	三六九
(六)	藏置ノ態様	三七一
(七)	藏置期限	三七一
(八)	保稅倉庫證券	三七三
(九)	倉敷料及其他ノ費用	三七七
(一〇)	輸入稅ノ納付	三七九
(一一)	藏置貨物ニ對スル責任	三八〇
(一二)	入出庫其他ノ手續	三八二
(一三)	外國ノ保稅倉庫	三八四
	第十三章 保稅工場	三九九

目次	六
(一) 沿革	二九一
(二) 概念	二九二
(三) 作業	二九三
(四) 機能	二九四
(五) 種類	二九六
(六) 貨物藏置期間	二九六
(七) 課税	二九七
(八) 私設保税工場ノ設立及廢止並稅關ノ監督	二九八
第十四章 保税運送	三〇三
第十五章 犯則事件ノ調査及處分	三一
(一) 概説	三一
(二) 關稅罰	三一
(三) 犯則事件ノ調査及處分	三八

第十六章 植民地關稅制度	三一
(一) 朝鮮	三三
(二) 臺灣	三八
(三) 樺太	三〇
(四) 南洋群島	三一
第十七章 稅關手續ノ簡捷ニ關スル國際條約	三五
(一) 概説	三五
(二) 條約ノ内容	三六

緒

言

關稅法ノ對象

人類カ物質的慾望ヲ、ヨリ完全ニ充足スル爲ニハ、彼等カ各自生産スルトコロノ財貨ヲ相互ニ交換スルコトヲ必要トス。而シテ斯ノ如キ財貨ノ交換ガ異ナレル國々ノ間ニ行ハル、トキ茲ニ外國貿易ナル現象ヲ生ス。而シテ人類ノ慾望カ質的ニモ又量的ニモ絶エス向上スル結果斯ノ如キ財貨ノ交換モ益々増進シ其ノ地域モ世界的ニ擴大セラル、ニ至レリ。抑々外國貿易ノ起源タル内地商業ニ先ンシ、近隣ノ同種族間ヨリハ寧ロ生産條件ヲ異ニスル遠隔ナル異種族ノ間ニ各自ノ生産セサル特産品(植林地産品、貴金屬)ヲ限ラレタル時期(例、年市)ニ於テ交換シタルニアレトモ(本位田祥男博士歐洲經濟史第一〇一頁以下參照)今日ノ貿易ハ然ラス、人類ノ生活必需品(棉花・羊毛・鐵・石炭等)カ常時交換セラル、コトニ依リ、始メテ各國民カ經濟生活ヲ完ウシ得ヘク此ノ意味ニ於テ各國ハ程度ノ差コソアレ夫々相互依存ノ關係ニアリト謂ハサルヘカラス。茲ニ於テ近世ノ國家ハ一面ニ於テ財貨交通ノ自由ヲ承認スルト共ニ他面斯ル涉外的交換現象ニ對シ一定ノ規律ヲ爲ス必要ヲ認メ各國獨自ノ産業狀態ニ立脚シ、漸次外國貿易ニ關スル

關稅制度

制度ヲ確立スルニ至レリ。就中財政上乃至産業保護ノ必要ヨリスル關稅ノ徵收ハ茲ニ各國ヲシテ所謂關稅制度 (Zollwesen) ヲ確立セシムルニ至レリ。抑々關稅制度トハ一國一時代ニ於ケル國家ノ關稅政策ガ國家ノ行政事務トシテ顯現シタル制度ナリトス。茲ニ關稅政策 (Zollpolitik) トハ外國貿易政策 (Aussenhandelspolitik) 即チ輸出入ニ關スル國家ノ政策ナルヲ以テ關稅制度ニ於テモ輸出入ニ關スル制度ヲ以テ其ノ固有ナル部分トス。而シテ今日ノ國家ハ貨物ノ輸出入ニ關シテハ原則トシテ之ヲ自由ト爲スモ(例外、輸出入制限乃至禁止)、別ニ財政經濟上ノ必要ヨリシテ輸出品ニ對シテハ概ネ關稅(輸入稅)ヲ賦課ス(例外、無稅)。之レ關稅政策、關稅制度ノ名稱アル所以ナルヘシ。而シテ一國ノ關稅政策ノ複雜微妙トナルト共ニ關稅制度モ亦益々複雜多岐ヲ極ム。然カモ今日ノ關稅制度ニハ獨リ貨物ノ輸出入ノミナラス、之ト關聯シテ旅客ノ出入、船舶ノ出入其他凡テ一國ノ關門タル稅關ニ於テ對內的將タ對外的ニ取締ヲ要スヘキ事項ノ全部ヲ包含セリ(例、思想ノ取締)。故ニ一國一時代ノ稅關ノ事務ヲ通ジテ觀ルニ關稅制度ノ内容ハ、必ス

シモ從來商業政策學者ノ研究對象ノ一部ヲ構成セル關稅制度ト其ノ範圍ヲ同ウセサルヘシ。之ヲ今日ノ我カ關稅行政ニ觀ルニ輸入行政、輸出行政、戻稅行政、保稅地域行政、運送行政、船舶及開港ニ關スル行政、檢疫及港務行政、噸稅行政、監視行政ヲ包含ス(後述關稅行政事務ノ項參照)

關稅法規

關稅行政ハ國家ノ行政事務ナルヲ以テ勿論法規ニ準據シテ行ハル。所謂關稅法規ト (Zollgesetz) 總稱セラル、モノ之ナリ。而シテ關稅行政ハ國家ノ財務行政(大藏省事務)ノ一部ニ屬スルヲ以テ關稅法規モ之ヲ租稅法 (Zollrecht) ノ一部ト看做ササルヘカラス。然シ他方關稅ハ純然タル收入本位ノ租稅ト異ナリ一國貿易政策上ノ手段タリ。之レ關稅カ財政學上ノ研究對象トシテヨリハ商業政策學上ノ研究對象トシテ、ヨリ重要性ヲ有スル所ニナリトス。加之輸入、輸出ノ相手國トノ關係ニ於テ外國トノ交渉存スルニ於テヤ、勢法規ノ性質カ單純ナラサルヲ知ルヘキナリ。關稅問題カ大藏、外務、商工、農林、拓殖ノ各省協議ノ下ニ決セラル、ヲ知ラハ以テ這般ノ事情ヲ察スルニ足ルヘシ。之レ關稅法カ等シク租稅法ニ屬シナカラ收入本位

ノ内國租稅法ト全ク其ノ趣ヲ異ニスル所以ニシテ(註)關稅行政研究ノ困難モ實ハ茲ニ存スト謂フヘシ。

註 内國稅例ヘハ所得稅カ社會政策的目的ヲ有スルト、關稅カ産業統制上ノ目的ヲ有スルトハ其ノ程度ノ差ニアラス、目的ト手段トノ相違ト謂ハサルヘカラス。
關稅ハ財政統計上特別ノ注意ヲ要スルモノトセラル。(汐見三郎博士財政統計第四八、一〇四頁參照)

關稅法規ハ數多ノ法令ヨリ成ル。左ニ以下引用スルコトアルヘキ主ナル法規ヲ掲クヘシ。

- (一) 關稅法(明治三二年法律第六一號)
關稅法施行規則(明治三二年勅令第三一九號)
- (二) 關稅定率法(明治四三年法律第五四號)
- (三) 噸稅法(明治三二年法律第八八號)
噸稅法施行規則(明治三二年勅令第三二〇號)
- (四) 船舶法(明治三二年法律第四六號)

- (五) 保稅倉庫法(明治三〇年法律第一五號)
保稅倉庫法施行規則(昭和二年大藏省令第二三號)
- (六) 保稅工場法(昭和二年法律四五號)
保稅工場法施行規則(昭和二年大藏省令第二五號)
- (七) 開港々則(明治三一年勅令第一三九號)
- (八) 海港檢疫法(明治三二年法律第一九號)
海港檢疫法施行規則(明治四〇年内務省令第一三號)
- (九) 家畜傳染病豫防法(大正元年法律第二九號)
家畜傳染病檢疫規則(大正二年農商務省令第二號)
- (十) 畜牛結核病豫防法(明治三四年法律第三五號)
畜牛結核病豫防法施行規則(明治三六年農商務省令第四號)
- (十一) 輸出入植物取締法(大正三年法律第一一號)
輸出入植物取締法施行規則(大正三年農商務省令第二七號)
- (十二) 稅關官制(大正十三年勅令第三三三號)

(十三) 稅關貨物取扱人法(明治三四年法律第二八號)

稅關貨物取扱人法施行細則(明治三四年大藏省令第八號)

(十四) 航空法(大正十年法律第五四號)

航空法施行規則(昭和二年遞信省令第八號)

航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則(昭和二年大藏省令第十五號)

註、關稅法規ハ之ヲ制度トシテ考察スルトキハ二ツノ部分ニ分ツコトヲ得。

(一)ハ狹義ノ關稅制度即チ關稅率制度(Zolltarifverfahren)ニシテ(二)ハ通關及監視制度(Zoll-und Kontroll-verfahren)ナリ。前者ハ關稅ノ賦課、輸出入禁止、戻稅、免稅等直接關稅ニ關スル法規ニシテ、我國ニ於テハ關稅定率法ヲ中心トス。後者ハ一言ニシテ謂ハハ凡ソ貨物ハ如何ナル手續ヲ經テ輸出入セラル、ヤヲ定ムル法規ニシテ貨物ノ輸出入及通過、船舶ノ入出港等ノ規定竝此等ニ關スル國家ノ取締的規定ヲ包含ス。關稅法ヲ中心トシ前掲ノ如ク數多ノ特別法ヲ有ス(Vgl. Anton Kraik, Zollgesetz-

Kunde für Kaufleute, S. 1—2. 獨法ニ所謂狹義ノ Zollgesetz 及 Zollordnung ed. Zollregulativノ區別即チ之ナリ。

右ノ中關稅法ハ帝國憲法ノ下ニ關稅行政ノ根本ヲ定メタルモノト稱スヘク、關稅定率法ハ關稅法ノ特別法トシテ特ニ附屬別表(輸入稅表)ノ前提トシテ課稅方法ニ關シ定メ、保稅倉庫法及保稅工場法ハ特ニ保稅地域ニ關シ定メタリ。噸稅法ハ外國貿易船カ開港ニ入港シタルトキ賦課スル租稅タル噸稅ニ關シ定ムルモノナルヲ以テ右ト尠シク性質ヲ異ニスルモ、噸稅ニ關スル事務カ稅關ノ事務ニシテ且ツ開港及船舶ニ關スル事務ト密接ナル關係ニアルヲ以テ重要ナリト言ハサルヘカラス。稅關貨物取扱人法ハ稅關ニ對シ貨物ノ手續ヲ取扱フヲ業トスル者ニ關シ定メ、稅關官制ハ關稅行政機關ニ關シ定ム。以上關稅法規ハ國家ノ財務行政ニ關スル法ナルカ故ニ行政法ニ屬シ從テ又公法ナルカ、他面保稅倉庫法ノ商法ニ於ケルカ如ク私法トモ接觸シ、又關稅法其他ニ於ケル罰則ニ關スル規定ニ於テ刑法トモ接觸ス。右ノ外國國際法ニ屬スル條約中ニモ關稅法規アリ。關稅ニ關スル

通商條約ヲ始メ、同盟及聯合國トノ平和條約、最近ノ輸出入禁止乃至制限ニ關スル條約、稅關手續簡捷ニ關スル條約等之ナリ。猶條約ニ關シテハ最惠國條款ニ注意スルヲ要ス。以上成文法ノ外、訴願ノ裁決、稅關長會議、稅關事務官會議、監視官會議及~~監査~~查官會議ノ決議等ハ關稅行政ニ關スル慣習法成立ノ契機トナルコトアリ。其他此等ノ豫定セサル事態ニ際シ條理ニ依リ其時其場所ニ於テ妥當ナリト思惟スル判斷ノ行ハル、コトアルハ當然ナリ。以上關稅法規ハ本洲ハモトヨリ我カ植民地タル臺灣、樺太、朝鮮又ハ我カ委任統治地タル南洋群島ニ多少ノ例外ヲ以テ施行セラル。我カ租借地タル關東州ハ尠シク事情ヲ異ニス。

研究方法

關稅法規ハ行政法ノ一部ニ屬スルヲ以テ之カ研究ニ一般行政法學ノ知識ノ必要ナルハ謂フヲ俟タサレトモ、他方其ノ規律對象ノ特殊性ニ鑑ミ實質的研究ノ一層重要ナルヲ認メサルヘカラス。就中關稅制度ニ關スル正シキ認識ハ本法研究ノ出發點ナリ。故ニ商業政策(關稅政策)學及財政學ハ本法研究ノ基礎學ト謂フヘシ。猶行政法學ト共ニ行政學の考察カ本法ノ

研究ニ重要ナルハ余ノ密カニ信スルトコロナリ。具體的ノ研究方法トシテハ右ノ基礎知識ニ依リ先ツ幕末以來ノ我カ關稅法規發展ノ跡ヲ釋ヌルヲ捷徑トスヘク、(法史的的研究)然ル後外國ノ立法例ヲ比較研究(比較法學的的研究)セハ以テ大過ナカラシ。又必ズシモ法理ヲ同ウセスト雖商(私)法ノ研究方法カ之ニ役立ツヘキコトヲ茲ニ附言セントス。

第一章 關稅ノ概念

形式的概念
實質的概念

關稅ノ概念ヲ一般的ニ示スコトハ至難ノコトナリ。蓋シ我カ法制上之ヲ明確ニシタル法條ナキヲ以テナリ。茲ニハ我カ關稅ニ關スル法規ヲ綜合觀念シタルトコロノ形式的意義ニ於ケル關稅ノ概念ヲ根幹トシ、別ニ或ハ關稅ノ沿革ヲ釋ネ、或ハ外國ノ立法例ニ之ヲ觀テ、聊カ實質的意義ニ於ケル關稅ノ概念ヲモ明カニセントス。關稅 (Zoll) ハ現行法上ノ概念トシテハ「國家カ法律又ハ條約上ノ協定ニ依リ、外國ヨリ輸入スルトコロノ貨物ニ對シ賦課シ、輸入申告者其ノ他ヨリ徵收スルトコロノ租稅ナリ」ト稱スルコトヲ得ヘシ。左ニ之ヲ分說スヘシ。

(一) 關稅ハ租稅ナリ。

關稅ハ國家カ非報償的ニ課徵スルトコロノ租稅 (Zener) ノ一種ナリ。歐洲ニ於テハ關稅ハ嘗テ道路、橋梁、港灣設備等ノ使用ノ對價トシテ又ハ貨物及旅客ニ對スル保護及警衛ノ報酬トシテ徵收セラレタルコトアリ。關稅ハ此等報償的ノ手数料又ハ使用料トシテ先ツ發生シ、漸次非報償的ノ租稅ニ迄進展シタルモノナリ(註)

租稅

註 關稅ハ世界最古ノ租稅ノ一ナリ。古代希臘及羅馬ニ於テモ關稅カ徵收セラレ、中世ニ於テハ關稅ヲ徵收スルノ權ハ君主ノ大權ニ屬シ、獨逸ニ於テハ皇帝ヨリ更ニ各諸侯ニ此ノ權ヲ附與シタリ。奧國ニ於テモ關稅ヲ徵收スルノ權カ一四五三年一月六日附特許狀ニ依リフリードリツヒ三世ヨリ各諸侯ニ附與セラレタリ。當時ノ關稅ハ勿論純然タル財政上ノ見地ヨリ徵收セラレタルモノナリ(Kralik, a. a. O. S. 6)。往時ノ關稅カ通行手數料的性質ヲ有セシコトハ當時ノ立法ニ於テ關稅カ其他ノ入市稅、通行稅、消費稅等ノ諸稅(Akzise, Maut)ト共ニ規定セラレタルノ事實ヨリシテモ明瞭ナリ。英國ニ於テハ tollナル名稱ハ內地消費稅トシテ殘リ、國境關稅ニ對スル名稱トシテハ customナル名稱生セリ。プロシヤニ於テハ Akziseナル稅ハ夙ニ商取引ニ對スル課稅トシテ認メラレ從テ又都市稅トシテ都市以外ノ地方ニ於ケル課稅ト對立シタリシカ、一八一八年ニ至リ始メテ外國ヨリノ輸入品ニ對シ消費稅附加稅トシ關稅ヲ課スルコト、セリ。オーストリアニ於テモ關稅ハ夙ニ通行手數料ト共ニ規定セラレシカ、一七七五年(マリアテレサ時

代)始メテ兩者ヲ區別セリ。即チ通行手數料ハ人カ外國ノ領土ニ入ル場合ニ納付スヘキ稅金、人、動物、運搬具等カ道路、河川、橋梁等ノ使用ノ代價トシテ納付スヘキ稅金ヲ稱シ、關稅ハ爾來貨物ノ輸入、輸出、通過ノ場合ニ課徵セラル、稅金ノミヲ稱スルコト、ナレリ。(Josef Gruntzel, "System der Handelspolitik", 3. Aufl. 1928, S. 278.)

關稅ハ其ノ課稅ノ目的ヨリシテ財政關稅 (Finanzzölle, reinfiskalische Zölle)ト保護關稅 (Schutzölle, die aus volkswirtschaftlichen Interessen aufgelegte Zölle)トニ分ツコトヲ得。前者ハ主トシテ國家ノ收入ヲ得ル目的ヲ以テ課スル關稅ニシテ通常ノ租稅的性質ヲ具備スルモノナリ。國內ニ於テ生産セラレサル貨物例ヘハ茶、珈琲、コ、ア等ノ關稅又ハ國內ニ於テ内國消費稅ヲ課セラル、貨物例ヘハ麥酒、火酒、砂糖等ニ關スル關稅ハ概ネ之ナリ。保護關稅トハ收入ヲ目的トセサルニハ非サレトモ寧ロ内地ノ産業ヲ保護、獎勵スル目的ヲ以テ課スル關稅ニシテ本來ノ租稅ト尠シク性質ヲ異ニスルハ前述ノ如シ。保護關稅ノ重要性ハ時代ト國ニ

財政關稅
保護關稅

依リ大ニ異ルモノトス。(註)

統一關稅地域

註一、關稅カ單ニ收入ノ目的タルノミナラス對外商業政策ノ手段トシテ用ヒラル、ニ至リシハ十七世紀 Mercantilsystem ノ盛ントナリタル以後ニシテ之カ先鞭ヲ爲シタルハ英國ナリト謂フ。而シテ所謂統一の關稅地域 (geschlossenes Zollgebiet) ノ成立ハ之カ要件ナリシナリ。佛蘭西ニ於テハコルベール (Colbert) 以來ノ努力ニ依リ漸次内地關稅撤去、一七九一年ニ統一關稅地域成立、獨逸ニ於テハ一八三三年ノ關稅同盟 (Zollverein) カ端緒ニシテ之カ完成ハ一八七一年ノ獨逸帝國成立ノ時ナリ。奧國、伊太利、瑞西等皆此ノ時代ナリ (Grundzel, a, a, O, S, 279)

世界大戰ト關稅政策

註二、前掲重商主義ノ下ニ極端ナル保護貿易行ハレシ後、一八二三年英國カアダムスミスノ自由貿易政策ヲ採用スルニ至リシヨリ凡ソ五十年間ハ他ノ諸國モ競フテ此ノ傾向ニ進ミタリ (Freihandelsystem)。然ルニ其後フリードリツヒリストノ保護貿易論表ハレ再ヒ保護貿易ノ時代トナレリ (Schutzzoll-od, Protektions-System)。爾來世界大戰ニ至ル迄此ノ傾向ヲ以テ

國際聯盟規約

進ミタリ。大戰中ニ於ケル列強ノ關稅政策ハ敵味方共ニ戰爭ノ遂行ヲ以テ唯一ノ目標トシ、戰費填補ノ目的ヲ以テ關稅率ヲ引上ケ、或ハ更ニ新タナル關稅ヲ設ケ又船腹調節、國民消費ノ節約、正貨流出防止、物資ノ國家的管理等ノ爲メ輸入禁止ヲ行ヒ、又原料及食料品ノ確保、物資ノ敵國ヘノ輸入防止、船腹調節等ノ爲輸出禁止ヲ行ヒ、其他對敵通商禁止ニ依リ極端ナル自給自足ノ主義ニ出テタル爲、國內的ニハ各國共不合理ナル全般的關稅引上ノ結果トナレリ。戰後國際聯盟規約ノ成立ニ依リ同第廿三條第六號ニ聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ違由シ交通及通過ノ自由竝一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スルタメ方法ヲ講スヘシト規定シテ以來之カ實現ノ爲屢々國際會議(一九二〇年ノブラツセル財政會議、一九二二年、一九二七年ノゼノアノ國際經濟會議、近クハ倫敦ノ世界經濟會議等)ヲ開催シタリシカ、列國戰後ノ國內經濟事情、戰債問題等ノ爲寧ロ戰前以上ノ保護主義、排外主義橫行シ、傳統的自由貿易國タリシ英國、丁抹、和蘭等モ此ノ影響ヨリ免カレ得サル

關稅休日會議

現狀ニアリ。(拙稿大正十四年十二月號國民經濟雜誌所載國際平和と關稅問題参照)

最近各國ノ關稅政策ニ就テハ上田貞次郎博士最近世界及ヒ日本ノ關稅政策(現代經濟學全集第二十八卷所載第七頁以下参照) 特ニ關稅休日會議(Conférence pour la trêve douanière)ノ目的ニ就テハ同博士國際聯盟ニ於ケル歐洲關稅同盟ト關稅据置條約案(自由通商第二卷第十一號杉村陽太郎博士關稅休戰ニツイテ)前掲第二卷第二號關稅休日會議トソノ條約案(前掲第三卷第一號)又其ノ經過ニ就テハ關稅休日會議參加國ト若干國政府ノ聲明(前掲第三卷第二卷)關稅休日國際會議ノ經過(前掲第三卷第三及第四號)關稅休日國際會議ノ成果(前掲第三卷第五號)所謂關稅休日會議ト其後ノ措置(前掲第三卷第七號)過去一ケ年間ニ於ケル聯盟經濟事業ノ成果(前掲第三卷第十二號)(以上イヅレモ國際聯盟事務局公表参照) 猶現下ノ世界的高率關稅低減ニ關スル立法技術ニ關シテハ高柳松一郎博士「關稅率低減ノ協定」(翻譯)(前掲第二卷第一卷)ヲ参照。

間接稅

註三、關稅ハ又消費稅、交通稅ト共ニ間接稅(indirekte Steuer)ト稱セラレ、所得稅、收益稅、財政稅等ノ直接稅(direkte Steuer)ト對立ス。直接稅ニアリテハ當該租稅ノ支拂義務者ハ當該租稅ノ負擔者ナレト間接稅ニアリテハ租稅ノ負擔者ハ租稅義務者ニ非ス、當該租稅ノ賦課セラルル消費物件ノ消費者ナリ。

貨幣關稅

註四、今日ノ關稅カ貨幣關稅(Geldzölle)ナルコトモ貨幣經濟時代ニ於ケル當然ノ現象ニシテ沿革的ニハ關稅モ凡テノ他ノ租稅ト同様實物關稅(Naturalzölle)一物納關稅一タリシ時代存シタリ。

(二) 關稅ハ國家之ヲ徵收ス。

今日ノ關稅ハ國稅ナリ。歐洲ニ於テハ地方稅タリシコトアリ。

註 之レ關稅カ商業政策ノ手段トシテ用ヒラル、ニ至リ一國ノ政治的領土ヲ以テ關稅地域ト爲スニ至リシカ爲ナリ。國境關稅(Grenzzölle)ト稱セラルルモノ之ナリ。所謂國內關稅(Binnenzölle)ノ撤廢セラレシハ近代ノコトナリ。即チ土耳其ニ於テハ海路輸入セラル、貨物ハ他ノ土耳其海

國境關稅ト
國內關稅ト

港ヨリ來リタル場合ト雖、外國貨物ト同様八分ノ輸入税ヲ徵收シタリシカ、一九〇二年ニ至リ數多ノ貨物ニ對シ一律ニ二分ニ輕減シ其後他ノ貨物ニ對シテハ之ヲ撤廢セリ。ブラジルニ於テハ各州間ノ内地關稅ハ漸ク一九〇四年六月十一日法律ニ依リ撤廢セラレタリ。支那ニハ今日尙釐金税(釐捐 *Likindgaben*)ナル内地關稅アリ。之ハ十九世紀中頃長髮賊ノ亂中戰時非常税トシテ過渡的ニ實施セラレタルモノナルカ其後全國ニ普遍的ノ地方税トナリ、革命後支那ノ内亂ト共ニ益々複雑化シタルモノナリ(高柳松一郎博士支那關稅制度論 改訂增補三版第五七八頁以下參照)。一九〇二年九月五日英支通商條約(所謂 *Mackay-Veltheim*)ニハ釐金ノ撤廢ヲ規定セシカ(同第八條批准ノトキ之ヲ除外セリ。其後一九二二年二月四日華府關稅條約アリ。(五分ノ輸入税ニ二分五厘ノ附加税ヲ課シ或種奢侈品ニハ五分ノ附加税ヲ認メ釐金ヲ撤廢スル案) (*Grundzel, a. a. O. S. 280*)

輸入税

(三) 關稅ハ輸入貨物ニ之ヲ賦課ス。

國定關稅ト協定關稅ト

我カ現行法上關稅ハ輸入貨物ニ課スルモノナリ(法一)。關稅ハ即チ輸入税ナリ。往時及現代ニテモ他國ニハ輸出税及通過税ヲ設クルモノアリ。近代先進國ハ輸出及通過ノ助長獎勵ノ必要上概ネ之ヲ設ケス。現存ノモノハ多クハ未開國ニ於ケル財政關稅トシテナリ(世界大戰中輸出税再現セリ)。其他後述スルトコロニ讓ル。

(四) 關稅ハ法律又ハ條約ニ依リ課ス(法一、定法、一)

關稅ハ又其ノ基クトコロノ法規ノ形式ヲ標準トシ國定關稅及協定關稅ノ二種ニ分ツコトヲ得。前者ハ法律ニ依リ定メラレタル關稅ニシテ、後者ハ外國トノ條約ニ依リ定メラレタルモノナリ。我カ制度上ハ前者ヲ原則トシ後者ヲ例外トス。前者ハ關稅定率法附屬別表其他關稅率ニ關スル單行法之ヲ定メ、後者ハ外國トノ關稅協定ノ定ムルトコロナリ(日佛、日伊關稅協定等)。詳細ハ後述スルトコロニ讓ル。

(五) 關稅ハ輸入申告者其他ヨリ徵收ス(法、四)

茲ニ申告者ノ何タルカ、又其他ノ者ノ何タルカモ亦後述スルトコロニ

關稅法大意
讓ル。

第二章 開港

(一) 關稅地域

輸出又ハ輸入ナル現象ハ一國ヲ中心トスル貨物ノ移動ニ就キ國家カ一定ノ地域的限界ヲ設ケ、其ノ限界ヨリ外ニ出ツルコトカ輸出ニシテ、其ノ限界ヨリ内ニ入ルコトカ輸入ナルコトハ、茲ニ改メテ説明ヲ要セスト雖、只右ノ地域的限界ヲ何處ニ求ムヘキカニ關シテハ一應研究ノ要アリ、即チ此ノ地域的限界ハ、必スシモ國家ノ政治的國境ト一致セス、又外國貿易論上謂フトコロノ國ノ概念ノ如キ實質的ノモノニ非ス(註一)所謂輸出入制度上ノ關稅地域(Zollgebiet)ノ問題之ナリ。關稅地域トハ國家カ同一關稅法規ヲ施行シ得ヘキ地域トシテ指定シタル範圍ナリ。一ノ關稅地域ヲ他ノ關稅地域ヨリ分離スルトコロノ限界ヲ關稅線(Zolllinie)ト稱ス。此ノ關稅線カ國家ノ政治的國境線(Grenzlinie)ト一致スレハ、之ニ依ツテ區劃セラル、國家ノ領土(Staatsgebiet)ト關稅地域トカ一致スルワケナルカ、兩者ハ必スシモ一致セス。右不一致ノ場合ヲ分チテ二ツト爲スコトヲ

關稅地域

關稅線

得。第一ハ二ツ以上ノ國家ノ全領土又ハ其一部分カ共通ノ關稅地域ヲ構成スル場合ニシテ、所謂關稅加盟、關稅聯合及關稅同盟 (Zollanschluss, Zollverband, Zollbündnis, Zollunion) ト稱セラル、モノ之ナリ。(註二)第二ハ國家ノ領土ノ一部分乃至植民地カ國家ノ貿易政策上ノ必要ヨリシテ、他ノ部分ト分離シテ、別箇ノ關稅地域ヲ構成スル場合ニシテ、此ノ一ノ部分ヨリ他ノ部分ヲ指シテ關稅外域 (Zollausschluss) ト稱スルナリ。我カ國ニ就テ謂ヘハ大正九年八月二十九日內鮮關稅統一前ニ於ケル内地ト朝鮮トノ關係ノ如キ即チ之ナリ。猶斯ノ如キ他ノ部分ヨリ分離セラレタル地域カ別箇ノ關稅地域ヲ構成セス、所謂自由港、自由港市、自由港區、自由地區——自由地帶 (Freihafen, Freihafenstadt, Freihafenviertel, Freibeizirk——Freigebiet) トシテ全然外國ト看做サル、コトアリ。我國ニ於テハ之ニ該當スルモノナシト雖、例ヘハ獨逸ニ於ケルハンブルク、ブレーメン、戰前埃匈國ノトリエスト、フューメノ如キ歷史上著名ナル例ナリ。(自由港等ニ就テハ後述)

外國貿易論ニ於ケル國ノ概念

註一、比較生産費說、國際價值論ノ如キ外國貿易理論ニ於テハ勞働及資本ノ移動

關稅同盟

カ自由ナルカ困難ナルカヲ以テ内外貿易ヲ區別スルノ標準トナス。(油木豐吉氏外國貿易論、一頁以下——現代經濟學全集第二十一卷)

註二、關稅制度ノ發達上關稅地域ノ擴大ハ其ノ著シキ傾向ノ一タリ。從テ之カ手段タル關稅同盟ハ重要性ヲ有ス。左ニ鈔シク之ヲ説クヘシ (Grundz. S. 389-401) 關稅同盟 (Zollunion) トハ廣義ニ於テハ政治的ニ獨立シタル二ツ以上ノ國家カ同一ノ關稅地域ニ結合セラレタルモノ (Vereinigung politisch selbständiger Staaten zu einem nach aussen hin geschlossenen Zollgebiete) ヲ謂フ。此ノ結合カ、全ク平等ナル基礎ノモトニ行ハル、點ハ關稅加盟 (Zollanschluss) ト區別スヘキ點ナリ。即チ關稅加盟ハ大國ト小國カ結合スル場合ニ、小國カ大國ノ關稅制度ヲ採用シ自國ノ關稅自主權ヲ放棄スルナリ。關稅同盟ノ内部組織ニ就テハ各種ノ形態ヲ考フルコトヲ得。即チ小ハ通商條約ニ依リ局部的結合ヲ爲ス場合ヨリ、大ハ完全ナル共通關稅ノ設定ノ場合ニ至ルヘシ。前者即チ局部的條約關係ニ基ツク結合ニ就テハ其ノ結合ノ程度ニモ種々アリ名稱モ必スシモ一致セスト雖、大體關稅聯合 (Zollverband, Zollbündnis)

關稅聯合

外部關稅

ト稱シ得ヘシ。後者ハ本文述フルトコロノ固有ノ關稅同盟(Zollunion)ニシテ、關稅地域ヲ共通トナシ從テ中間關稅線(Zwischenzolllinien)ヲ撤去スルモノナラサルヘカラス。

關稅同盟創設ノ重要ナル要件ハ加盟諸國カ一樣ニ外國ニ對シ適用スヘキ外部關稅(Aussenarif)ナリトス。此ノ稅率ハ固ヨリ加盟諸國ノ全產業部門ニ對シ同一ノ保護ヲ與フルモノナラサルヘカラスト雖、凡テノ貨物ニ對シ加盟諸國ノ現在各輸入稅表(Einzelarif)中ヨリ最高稅率ヲ選ヒ、此等ヲ集メテ外部關稅率表ト爲スカ如キ單純ナル方法ハ必スシモ加盟諸國ニトリテ有利ナリトセス。即チ一方ニハ或ル工業ニシテ外國ヨリ安價ニ半製品ヲ仕入レント欲スルモノアリ又他方ニハ斯ル半製品自體ヲ製造スル工業モアリ、關稅ノ保護ニ就キ兩者利害ノ一致セサルコトアルヲ以テナリ。猶財政關稅ニ就キテハ各稅率ノ調和ヲ計ルコト一層必要ナリ。例ヘハ植民地產品ノ稅率ヲ一律ニ最高稅率トナスコトハ、文化ノ程度高ク斯ル物資ノ消費力強キ國ニトリテハ、然ラサル國ニ比シ一層困難ナル事情ニアリ、更ニ又斯ル

中間稅率

物資ノ消費ハ國民ノ慣習、國土ノ氣候ノ關係ニヨリ必スシモ同一ナラス。例ヘハ獨乙ニ於テハ珈琲、英國ニ於テハ茶、西班牙ニ於テハコ、アラ夫々特ニ大ニ消費スルトキ此等各國ニ於テ珈琲ニ對シ同一ノ稅率ヲ定ムルコトハ此等各國ニ與フル影響等シカラサルヘシ。斯クテ此ノ外部關稅ハ同盟内ノ各國ニ對シ全ク同一ナリトナスコトヲ得サル場合アリ。茲ニ於テ中間稅率(Zwischenarif)ノ存在ヲ必要トス。

中間稅率トハ同盟諸國間相互ノ交通ニ對シ適用セラルヘキ稅率ナリ。勿論關稅同盟ノ理想トシテハ、斯ル中間稅率ヲモ全ク撤去シ自由ナル交通ヲ開クニ存スヘシト雖、現實ハ必スシモ然ラス。特ニ加盟諸國カ夫々加盟前久シク獨特ノ產業上ノ發達ヲ遂ケ來タル場合ニ於テハ加盟ト同時ニ關稅障壁ヲ無條件撤廢スルコトハ困難ナリ。カノ獨乙關稅同盟カ其後政治的ニモ統一スルニ至リシニモ拘ハラズ最近時ニ至ル迄中間稅率ノ凡テヲ撤廢スルニ至ラサリシハ之ヲ證シテ餘リアリ。惟フニ生産關係、財政關稅ノ負擔、消費稅關係ノ不平等ハ當然或ル程度ノ相殺關稅ヲ餘義ナカラシムル

モノトス。中間稅率設定ニアタリ注意スヘキハソレカ外部關稅ニ對シ有機的關係ニ立ツコトヲ要スルコトナリ。最モ單純ナル方法ハ關稅同盟カ自ラ統一的外部關稅ヲ設定シ、中間稅率カ之ニ對スル相當ノ比率ヲ以テ必要ナル稅率ヲ定ムルコトナリ。之ニ反シ各加盟國カ夫々(右中間稅率ヲ加味シタル)固有ノ外部關稅ヲ定ムルコトハ關稅率變更ノ場合等ニ於テ特ニ複雜ナル事情ヲ生ス。其他關稅同盟ニハ内部立法及行政機關ノ組織ノ問題、關稅收入ノ配分ノ問題、最惠國條款トノ關係等幾多ノ難問アリ。關稅同盟ノ利害ニ就キテハ特ニ茲ニ詳論セス。只前述ノ如ク關稅カ内地關稅ヨリ國境關稅ニ進展シタルカ爲所謂近世の商業政策ノ手段ニ利用セラル、ニ至リタル事實ニ鑑ミ、此ノ趣旨ヲ一層一國ノ領土外ニ擴大シタルモノカ關稅同盟ナリト謂フニ止メントス。此等ノ事項ニ就キテモ前掲文献ニ記述アレドモ、茲ニハ若干ノ實例ニ就キ聊カ關稅同盟ノ形態ト目的ノ考察ニ論及セントス。資料ハ主トシテ R. van der Borgh, *Handel und Handelspolitik*, 3 Aufl. 1922, S. 433 ff. ニ據リタリ。

關稅小國ノ關稅同盟

白耳義、和蘭關稅同盟、北方關稅同盟

小國ト大國ノ關稅同盟
 ルクセンブルグ
 ノ關稅同盟
 リヒテンシュ
 タイン
 ノ關稅同盟
 モナコ
 ノ關稅同盟
 佛蘭西
 ノ關稅同盟
 サンマリノ
 關稅同盟
 トイタリノ
 關稅同盟

關稅同盟組織ノ傾向ハ世界大戰勃發前二三十年ニ於テ特ニ著シキモノアリキ。關稅同盟ハ其ノ同盟國、同盟ノ目的ノ如何ニ依リ大體左ノ四種類ニ分類スルコトヲ得。其一ハ若干ノ隣接小國カ結合シテ同一關稅地域ヲ形成スル場合ニシテ、其目的ハ小國カ各自孤立ノ狀態ニテハ達スルコトヲ得サル商業政策上ノ目的ヲ達セントスルニアリ。之カ組織ノ要件ハ此等隣接小國カ財政、經濟上利害關係ヲ一ニナスコト之ナリ。一九〇三年計畫ノ白耳義和蘭間ノ關稅同盟、同ジク一九〇四年北方(瑞典、挪威、丁抹)經濟同盟(Nordische Verein zum ökonomischen Zusammenarbeiten)等ハ之ナリ。其二ハ小國カ隣接ノ大國ト關稅地域ヲ合一スル場合ニシテ、其目的ハ小國カ隣接ノ大國ニ對シ商業政策上力及ハサルコト竝小國ノ經濟的利益上缺クヘカラサル大國トノ交通ニ支障ナカラシメントスルナリ。ルクセンブルグカ獨逸ノ關稅地域ニ入り、リヒテンシュ、カ、タインカ、佛蘭西關稅地域ニ入り、モナコカ佛蘭西關稅地域ニ入り、サンマリノカ伊太利關稅地域ニ入りタルカ如シ。其他實現セサリシ例トシテハ一八三〇年代ニ於ケル白耳義ノ佛蘭西關稅地

域へノ併合運動(之ハ白耳義ノ國際的中立ノ地位カ脅カサル、トノ理由ノモトニ不成功ニ終レリ)一八九〇年代ニ於ケル瑞西ノ獨逸又ハ佛蘭西關稅地域へノ併合運動、一八九九年以來主張セラレタル和蘭ノ獨逸關稅地域へノ併合運動等ナリ。此等ノ運動ニ共通ナル不成功ノ原因ハ同シク前掲一ノ場合ノ如ク大小兩國ノ經濟的利益ノ不一致ナリトス。詳言スレハ小國ニトリテハ大國ノ關稅地域ニ併合セラル、コトハ其ノ孤立ノ状態ニアルヨリハ、其ノ製產品ニ一大販路カ開ケ、繼續的且ツ廣汎ナル利益アルニ反シ、大國ニトリテハ利益ハ寧ロ僅少ニシテ反ツテ從來ノ自國ノ經濟的利益ヲ害スルコト大ナリシカ故ナリトス。其ノ三ハ二ツノ隣接ノ大國カ併合シテ一大關稅地域ヲ形成スル場合ニシテ其ノ目的ハ經濟上乃至政治上ノ勢力増進ニアリ然シナカラ之カ實現ノ可能性ハ前二者ニ比シ一層困難ナリト謂フヘシ。這般ノ消息ハ一八五〇年以來ノ獨逸及埃匈國間ノ關稅同盟論之カ延長タル世界大戰中ノ中歐關稅同盟論ニ依リ知ルコトヲ得ヘシ。獨逸ト埃匈國トハ既ニ一八五〇年專ラ政治上ノ理由ヨリシテ關稅同盟論

隣接大國ノ
關稅同盟

アリ。次テ獨逸帝國成立後再ヒ經濟上ノ理由ヨリシテ此ノ運動起レリ。

就中當時ノ埃國工業家中央聯盟(Zentralverband der Industriellen Österreichs)並埃國國民經濟學會(Gesellschaft österreichischer Volkswirte)ノ主張ハ強力ナリシカ、兩國經濟狀態、稅制ノ相違等ノ爲遂ニ世界大戰迄奏功セサリキ。然ルニ世界大戰ノ爲、兩國カ聯合國側ヨリ受ケタル經濟封鎖ニ端ヲ發シ一ニハ又戰後ニ於ケル經濟戰ノ準備トシテ更ニ中央關稅同盟論起レリ。之カ主張者トシテハ獨逸側ニナウマン、ウオルフアリ、埃匈國側ニイルレスベルケル、バリ―アリ、其ノ主張スルトコロモ區々ニシテ、例ヘハ地域ニ就テモ獨、埃匈二國ニ限ルトスルモノアリ。更ニ巴爾幹、瑞西、スカンヂナヴィアヲ加ヘ、更ニ又佛、伊、土耳其ヲ加フヘシトスルモノアリ。又其ノ目的ニ就テモ經濟上ノ目的ヲ達スルヲ以テ足レリトスルモノアリ。更ニ政治上ノ目的ヲモ加ヘントスルモノアリタリ。當時ノ豫想ニテハ兩國ハ勿論聯合國側ニ於テモ中央關稅同盟ハ戰後成立スヘシトノ說盛ンニシテ、之ニ對抗シテ聯合國側ノ經濟同盟説出テタルモ同盟軍ノ敗北ノ結果頓挫スルニ至レリ。

中央關稅同
盟論

歐羅巴諸國
關稅同盟

其四ハ數多ノ有力ナル國家カ關稅同盟ヲ組織スル場合ニシテ、之カ實例トシテハ十九世紀末葉以來唱道セラレタル歐羅巴諸國關稅同盟、全米關稅同盟、大英帝國關稅同盟ナリトス。第一ノ歐羅巴諸國關稅同盟ハ其名ノ示ス如ク歐羅巴大陸諸國ノ大部分ヲ以テ關稅同盟ヲ組織セントスルモノニシテ、既ニ一八四〇年代佛蘭西學者ニ依リ、次テ一八五〇年伊太利學者ニ依リ主張サレシカ、大英帝國、全米各關稅同盟說ニ刺戟セラレ一八七〇年代再燃スルニ至レリ。即チ佛人モリナリハ一八七八年ニ、又匈國代議士パウスネルハ一八七九年ニ當時ノ獨逸宰相ビスマルクヘ斯ル計畫ヲ建築シタレトモ效ヲ奏スルニ至ラザリキ。更ニ一八八六年エル・ホンカウフマンモ當時ノ獨逸、埃匈國、佛蘭西、白耳義、和蘭及瑞西ノ六ヶ國ヲ以テ關稅同盟ヲ組織シ同地域内ニ共通ノ關稅率ヲ施行シ、出來得ル限りノ交易ノ自由ヲ計ルコトヲ主張セリ。又斯ル思想ハ一九〇三年二月十日ニ於ケル獨逸租稅及經濟改革者聯盟(Die deutsche Vereinigung der Steuer- u. Wirtschaftsreformer)ノ決議トモナリ、各方面ノ要望モ大ナリシカ、遂ニ世界大戰前成立スルニ至ラザリシモノ

全米關稅同盟

ナリ。而シテ之カ不成功ノ原因ハ前記中央關稅同盟不成立ノ場合ト同様、各國ノ財政經濟、政治上ノ立場ノ異ナルコト並夫々ノ立場ヨリスル異リタル主張ヲ相讓ラザリシコト及國民的情操ノ相違等ニ求ムヘキモノトス。次ニ全米關稅同盟ハ元來モンロー主義(一八二三年宣言)ヲ經濟ノ領域ニモ適用セントスルモノニシテ、一八八五年以來米國全土ニ於テ論争ヲ見タルモノナリ。其後一八八九年十月二日ワシントンニ於ケル第一回汎米會議一九〇一年十月二十一日メキシコニ於ケル第二回汎米會議、一九〇六年七月二十三日リオデジャネロニ於ケル第三回汎米會議ニ於テモ要望セラレシカ到底成立ノ見込立タザリキ。不成立ノ原因ハ固ヨリ種族ノ相違、南米諸國ノ敵對狀態ニモ求ムルコトヲ得レト、合衆國ト中米及南米諸國トノ經濟的利害關係ノ相違換言スレハ中米及南米諸國カ合衆國ト關稅同盟ヲ組織スルトキハ此等諸國ノ工業上ノ發達ヲ阻害スヘシト爲スカ主要ナル原因ナリトス。最後ニ大英帝國關稅同盟ハ英本國ト英領植民地トヲ打ツテ一丸トナシ一大關稅同盟ヲ組織セントノ計畫ナリ。母國ト植民地トニテ

大英帝國
關稅同盟

關稅地域ヲ更ニ區分シテ國境地帶(Grenzbezirk)ト關稅內域(Inneres Zollgebiet, Binnenland)トニ爲スコトヲ得。國境地帶トハ關稅地域中他ノ關稅地域ト接觸セル部分ニシテ、之ヲ除外シタル内部ノ地域ハ關稅內域ナリ。兩者區別ノ實益ハ、關稅地域中國境地帶ヲ他ノ部分ト異リタル特別ノ監視區域トナシ、以テ密貿易ヲ防止セントシ、又ハ國境地帶内ノ住民ノ生活上ノ便宜ノ爲メ、關稅手續上簡易取扱ヲ認ムルニ存ス。故ニ此ノ區別ハ實ハ歐洲諸國ニ於ケルカ如キ專ラ陸接國境ヲ有スル關稅地域ノ場合ニ必要ナルモノニシテ、我國ノ如キ概ネ四面環海ノ關稅地域ニ於テハ稍々事情ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス。我カ陸接國境中樺太ハ貿易微々タル爲メ、函館稅關大泊支署ニテ之カ事務ヲ取扱フ外別段ノ施設ナキカ如シト雖、朝鮮國境ニ於テハ大體右ノ如キ國境地帶ノ制度ヲ認メ居レリ、即チ(一)平安北道新義州停車場ヨリ咸鏡北道豆滿江口ニ至ル陸接國境ニ於テハ、朝鮮總督ノ指定セル新義州府及其他五十八箇所ノ地點ニ依ルノ外、貨物ノ輸出又ハ輸入ヲ爲スコトヲ得サルコト。(二)鐵道旅客以外

ノ旅客ノ用品及職業上必要ナル器具、陸接國境隣接地域内(國境ヨリ二里以内)ノ住民カ其ノ地域内ニ於テ爲ス作業ニ必要ナル物品竝收穫又ハ生産シタル物品ニシテ自ラ輸出又ハ輸入スルモノハ關稅法竝前記(一)ノ適用ヲ受ケサルコト(大正九年法律第五十三號關稅法關稅定率法保稅倉庫法及保稅工場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件及同年朝鮮總督府令第二百二十一號參照)(三)陸接國境ヲ直通運轉スル鐵道列車ニ依ル輸出入貨物ハ、安東縣停車場ニ於テ稅關手續ヲ爲サシムルコト(明治四十四年十一月二日調印日清協約、大正十四年朝鮮總督府訓令第七號鮮滿鐵道聯絡輸送貨物通關手續)之ナリ。

(二) 港 灣

港灣ハ水面竝之ニ接スル若干陸地ヲ以テ構成セラル。港ハ通路ノ或ハ起點或ハ中間點、或ハ終點ナリ。港ニ於テハ貨客ノ積卸カ最モ安全最モ迅速、最モ廉價ニ爲サレサルヘカラス。之ニ必要ナルハ所謂海陸連絡

設備(Terminal Facilities)ナリ。斯ル設備ノ海陸連絡諸費(Terminal Cost)ニ及ホス影響、從テ港灣乃至一國ノ貿易ノ消長ニ及ホス影響如何ヲ研究スルコトハ蓋シ港灣經濟論上ノ中心問題タルヘシ。

港ハ之ヲ各種ノ標準ニ依リ分類スルコトヲ得。地理的位置ヨリ河港、河口港、海港トナリ、使用ノ目的ヨリ軍港、漁港、商港トナル。茲ニ必要ナルハ只商港ナリ。商港ヲ更ニ分チテ本章專ラ説クトコロノ開港及不開港トス。自由港モ亦開港ノ特殊ナルモノナリ。港ハ又其ノ經營主體ノ如何ニ依リ、第一種港、第二種港及第三種港ノ三ツニ分ツ。第一ノモノハ其ノ修築管理カ專ラ國ニ依リ行ハル、港ニシテ、橫濱港、神戸港等ハ之ニ屬ス。第二ノモノハ右カ概ネ都市又ハ府縣ノ如キ地方自治團體ニ依リ行ハレ、只國庫ヨリ補助ヲ與ヘラル、港ナリ。大阪港ハ之ニ屬ス。第三ノモノハ專ラ地方公共團體ノミノ經營ニ委ネラル、モノナリ。港ノ經營ヲ如何ナル主體ニ委スヘキハ、カノ交通機關ノ經營主體ト共ニ交通政策上別箇ノ研究題目ナルカ、他方稅關トノ關係ニ於テモ、相當研究ノ要アリ。

河港、河口港、海港、漁港、商港

第一種港、第二種港、第三種港

一言ニシテ謂ヘハ關稅行政ノ主體カ常ニ國家ニシテ、稅關カ國家ノ官廳タルニ鑑ミ、港ノ經營主體カ國家タルトキハ、港ノ經營ト管理トカ同一主體ニ屬スルモ、ソレカ國家以外ノモノタルトキハ、兩者主體ヲ異ニスルコト、ナリ、兩當局ノ意見必スシモ一致セス、港ノ運用上不利益ナル事態ヲ來スコト無キニシモアラス。

(三) 開港

開港ト不開港

關稅法上最モ重要ナル港ノ區別ハ開港及不開港ナリ。開港トハ外國貿易船(後述)ノ出入シ得ル港ニシテ、開港以外ノ港其他陸接海岸線ハ凡テ不開港ト稱スヘキナリ。我國現在内地開港ハ左ノ如シ。(明治三十二年七月十三日勅令第三百四十二號開港及開港ニ於ケル輸出入貨物ノ指定第一條參照)

橫濱、長崎、函館、神戸、新潟、夷、大阪(以上ヲ從來ノ開港ト稱ス)清水、武豐、名古屋、四日市、宇野、尾道、糸崎、今治、徳山、下關、萩、門司、若松、博多、三池、唐津、住ノ江

三角、鹿兒島、嚴原、口ノ津、那覇、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、伏木、船川、青森、小樽、釧路、根室、室蘭、大泊、真岡

右從來ノ開港以外ノ開港ニ於テ滿二年毎ノ輸出入ノ貨物ノ價格カ五萬圓ニ達セサルトキ竝交通ノ發達ニ因リ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ將來存置ノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得。但シ前者ノ場合ニハ戰爭又ハ事變ニ因リ輸出入貨物ノ價格カ所定ノ額ニ達セサル場合ハ此限ニ非ス、又後者ノ場合ニハ右輸出入貨物ノ價格ノ如何ニ拘ラス之ヲ閉鎖スルコトヲ得ルナリ。

以上イツレノ場合ヲ問ハス大藏大臣ハ三箇月前閉鎖ノ時期ヲ公告セサルヘカラス(前掲勅令第三條、竝大正四年七月二十七日勅令第四百二十二號開港閉鎖ノ規定ノ適用ニ關スル件)

我國ニ於テハ未ダ港ニ關スル一般的法規存セス(但シ昭和三年五月社團法人港灣協會發表ニカカル港灣法案アリ)——現代法學全集第十六卷所載松波仁一郎博士海法參照。獨リ開港ニ關シテハ明治三十一年八月

開港港則

勅令第一三九號開港港則並明治三十一年九月遞信省令第十六號開港港則施行細則——共ニ昭和二年改正——アリ。開港港則ノ適用セラル、ハ凡テノ開港ニハ非ス。同第廿四條ニ依リ遞信大臣ノ告示アリタルモノ、ミナリ。現在既ニ告示アリタルハ、横濱、神戸、長崎、門司及大阪ノ五港ナリ。右ノ外各港別ニ詳細ナル規則アリ。横濱港規程(明治四十一年六月神奈川縣令第五十五號)神戸港規程(明治四十一年六月兵庫縣令第四十五號及同縣告示第二七五號)等ノ如シ。

開港ニハ各々港界(Habour limit)ヲ定ム。後述船舶ノ入出港噸稅ノ徵收等ニ關シ之カ必要ヲ見ルナリ。今左ニ參考ノ爲、横濱、神戸、大阪ノ港界ヲ掲クヘシ(開港港則第一條)。

- (一) 横濱ノ港界ハ十二天鼻ヨリ北四十六度、東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以內。
- (二) 神戸ノ港界ハ新在家ノ東角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經

界トナシタル面積内。

(三) 大阪ノ港界ハ神奈川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。

第三章 稅 關

(一) 小沿革

運上所

(一) 幕府時代、安政五年ノ開港以來、德川幕府ハ長崎、神奈川、函館、兵庫ニ運上所(註)ヲ設ケ、其他ノ奉行ヲシテ之ヲ管理セシメ、又之カ監督ハ中央官廳タル外國奉行ヲシテ行ハシメタリ。

(二) 維新時代、各開港及大阪ニ運上所ヲ設ケ、裁判所(明治三年二月以後府縣廳トナル)ヲシテ管理セシメ、之カ監督ヲ外國事務局(明治元年二月設置、同年四月外國官ト改メ、明治二年七月外務省ト改ム)ニ行ハシメタリ、蓋シ當時海關稅カ外國人ト交渉多カリシ爲ナリ。

(三) 明治時代、明治四年八月運上所監督ノ事務ヲ外務省ヨリ大藏省ニ移管セリ、同年十一月各港運上所職制ヲ定ム、明治五年十月始メテ稅關ナル名稱ヲ用ヒ、横濱稅關職制ヲ定メ、同年十一月横濱稅關ヲ本局トシ、其他ノ稅關ヲ統轄セシメ、名稱モ運上所ヲ全廢シ、稅關ニ統一セリ、明治七年一月横濱稅關ノ本局タルコトヲ廢シ、各港稅關

稅關

ヲ大藏省ニ直屬セシメタリ。稅關官制ハ明治十九年三月勅令第七號ヲ以テ定メラレ、數度ノ改正ヲ經、大正十三年勅令第三三三號ヲ以テ現行官制成レリ。關稅事務ヲ取扱フ大藏省内ノ租稅寮ハ明治十年一月租稅局ト關稅局トニ分レ、其後十七年五月合一シテ主稅局トナリ、更ニ十九年二月分局シテ關稅局新設セラレ、大正二年六月主稅局ニ合一、以テ現在ニ至レリ。樺太ハ大正六年勅令第五八號ニ依リ函館稅關ノ管轄ト定メラレタリ。

註、運上所、運上ノ稱呼ノ沿革ニ就テハ武田英一氏關稅行政綱要第一頁以下參照。

(二) 關稅行政機關

關稅行政トハ關稅、消費稅、噸稅ノ徵收ヲ中心トシ、之ニ關聯スル貨物ノ輸出入、船舶ノ入出港等ニ關スル國家ノ行政事務ノ一部(財務行政)ニシテ之ヲ取扱フ國家ノ官廳即チ關稅行政機關ナリ。關稅行政機關ヲ分チテ

主稅局

監督官廳ト執行官廳トニ分ツ。(註)前者ハ後者ノ上級官廳トシテ、此等一切ノ事務ヲ指導スル任ニアリ。大藏省(主稅局關稅課)及稅關之ナリ。今參考ノ爲官制ヲ示セハ前者ニ就テハ明治三十一年十月勅令第二六九號大藏省官制第五、七乃至十一號ニ租稅行政ヲ掌ル主稅局事務中關稅事務ニ就キ左記各項ヲ掲ク。

註、獨逸ノ Zollbehörde ト Zollamt トノ區別之ナリ。

- (一) 關稅、噸稅ノ賦課徵收及稅關諸收入ニ關スル事項。
- (二) 關稅行政ノ管理監督ニ關スル事項。
- (三) 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項。
- (四) 保稅倉庫、稅關假置場(保稅工場)及稅關倉庫ノ管理監督ニ關スル事項。

關稅課

(五) 外國貿易ノ狀況及關稅率調查ニ關スル事項。
更ニ又主稅局分課規程第一條第二條ニ依リ關稅課分掌事務トシテ左記ノ通り定ム。(大正十三年十二月廿二日官報)

- (一) 關稅及噸稅ノ賦課及減免ニ關スルコト。
- (二) 關稅及噸稅事務ノ管理監督ニ關スルコト。
- (三) 稅關經費配賦ノ調査ニ關スルコト。
- (四) 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スルコト。
- (五) 保稅倉庫、假置場(保稅工場)其他ノ保稅地域ノ管理監督ニ關スル事
- (六) 外國貿易ノ狀況調査ニ關スルコト。
- (七) 輸出交付金及戻稅ニ關スルコト。
- (八) 運送道路ニ關スルコト。
- (九) 輸出入品ノ調査鑑定ニ關スルコト。
- (十) 輸出入品ノ見本ニ關スルコト。
- (十一) 關稅率ノ調査ニ關スルコト。
- (十二) 關稅統計ニ關スルコト。
- (十三) 關稅制度ノ調査ニ關スルコト。

次ニ稅關ニ就テハ、明治三十二年四月勅令第百六十一號稅關官制アリ、此

稅關官制

ノ官制ハ大正十三年十二月港灣行政統一ノ必要ヨリ一大改正カ施サレ其ノ結果稅關事務ハ著シク擴大セラレタリ。乃チ左ノ如シ。

- (一) 關稅噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項。
- (二) 保稅倉庫、保稅工場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項。
- (三) 船舶及貨物ノ取締並貨物ノ收容ニ關スル事項。
- (四) 關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項。
- (五) 輸出入貨物ノ戻稅及交付金ニ關スル事項。
- (六) 運送通路ノ取締ニ關スル事項。
- (七) 輸入ノ砂糖又ハ織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項。
- (八) 輸出入又ハ移出入ノ植物ニ關スル検査、取締及病菌害虫ノ研究調査ニ關スル事項。
- (九) 開港港則ニ關スル事項。
- (十) 開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スル事項。
- (十一) 海港檢疫ニ關スル事項。

(十二) 輸入又ハ移入ノ獸畜其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法又ハ畜牛結核病豫防法ニ依ル檢疫検査ニ關スル事項。

前記ノ外稅關ハ内地產獸毛ノ消毒ニ關スル事務ヲモ掌ルコトヲ得。而シテ其ノ事務並第八項乃至第十二項ノ事務ヲ掌ル稅關ハ大藏大臣之レヲ告示スルモノトス(大正十三年告示第二百一號)。

註、谷口恒二氏稅關入門第十九頁以下ニ以上各種事務ニ基キ稅關ノ職分ヲ論セリ。

(三) 稅關ノ組織

稅關ノ組織ハ稅關分課規程(大正四年二月十九日官報、大正十三年十二月二十二日改正)之ヲ定ム。右ニ依レハ稅關ニ於ケル事務ハ監視部及港務部ノ外、稅關長官房、總務課、検査課、植物検査課及會計課ニ分掌セラレ。右各部、課ニ於ケル分掌事務ヲ記セハ左ノ如シ。

一、稅關長官房

- (一) 機密ニ關スルコト。
- (二) 官吏ノ進退身分ニ關スルコト。
- (三) 官印及應印ノ管守ニ關スルコト。
- (四) 文書ノ接授發送編纂保管ニ關スルコト。
- (五) 翻譯ニ關スルコト。
- (六) 異議訴願及訴訟ニ關スルコト。
- (七) 外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト。
- (八) 保稅倉庫假置場(保稅工場)其他ノ保稅地域ノ設置變更廢止ニ關スルコト。
- (九) 他ノ部課ニ屬セサルコト。

二、總務課

- (一) 船舶貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スルコト。
- (二) 船舶貨物及船用品ニ關スル免許特許認許其ノ他ノ處分ニ關スルコト。但シ開港港則、海港檢疫法、家畜傳染病豫防法、畜牛結核

病豫防法、輸出入植物取締法、輸出獸毛製刷毛取締規則及內地產獸毛消毒規則ニ關スルモノヲ除ク。

(三) 検査スヘキ貨物ノ指定ニ關スルコト。

(四) 諸税及諸收入ノ賦課徴收並豫算決算ニ關スルコト。

(五) 税金ノ擔保ニ關スルコト。

(六) 統計及諸表ノ作製ニ關スルコト。

三、検査課

(一) 貨物及船用品ノ検査鑑定ニ關スルコト。

(二) 見本品ノ採取保存ニ關スルコト。

(三) 仕入書ノ整理保存ニ關スルコト。

四、植物検査課

(一) 輸出入又ハ移出入植物ニ關スル検査取締ニ關スル事項。

(二) 輸出入又ハ移出入植物ノ病菌及害虫ノ研究調査ニ關スルコト。

五、會計課

(一) 經費ノ豫算決算及會計ニ關スルコト。

(二) 官有財産及物品ニ關スルコト。

(三) 交付金諸拂戻金ニ關スルコト。

(四) 營繕ニ關スルコト。

六、監視部

(一) 船舶貨物及船用品ノ取締ニ關スルコト。

(二) 保税地域及運送通路ノ取締ニ關スルコト。

(三) 貨物ノ整理及收容處分ニ關スルコト。

(四) 倉庫事務ニ關スルコト。

(五) 犯則事件ノ調査處分ニ關スルコト。

(六) 旅客携帶品ノ検査ニ關スルコト但シ輸出入植物取締法ニ依ルモノヲ除ク。

(七) 船内船用品ノ検査ニ關スルコト。

(八) 艙口申告書旅客氏名表及船内船用品目錄ノ調査ニ關スルコト。

(九) 稅關構内ノ取締ニ關スルコト。

七、港務部

- (一) 開港々則ニ關スルコト。
- (二) 開港々則ノ施行ニ直接必要ナル港内ノ行政警察ニ關スルコト。
- (三) 海港檢疫ニ關スルコト。
- (四) 輸入又ハ移入ノ獸畜其他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法又ハ畜牛結核病豫防法ノ檢疫検査ニ關スルコト。
- (五) 内地產獸毛ノ消毒ニ關スルコト。

(四) 稅關所在地並稅關管轄區域

稅關ハ内地ニ於テハ、現在橫濱、神戶、大阪、長崎、門司及函館ノ六港ニ設置セラレ(稅關官制第二條)且ツ此等稅關ニハ左記ノ通り各々管轄區域ノ定アリ(大正六年勅令第五十八號) 各稅關ハ其ノ管轄區域内ヲ管轄スル必要上夫々、稅關支署(東京ヲ除キ凡テ開港)稅關出張所、稅關支所出張所(國有

鐵道主要驛)稅關監視署(不開港等)ヲ設置スルコトヲ得。(稅關官制第二十三條第一項)

註、獨逸ハ Hauptzollämter, Zollämter 埠國ハ Hauptzollämter, Nebenzollämter erster u. zweiter Klasse ニ分ル。又 Gemischte, internationale Zollämter, Grenzzollämter, Innerandesämter, Aviso-od. Ansageposten ノ區別存ス。米國ハ Collectors office, Deputy collectors office カ夫々 Head quarters port, Port of entry ニ設置セラル。支那ニハ海關、常關及釐金局ノ三種アリ。

稅關名稱	位 置	管 轄 區 域
橫濱	神奈川縣橫濱市	東京府、神奈川縣、埼玉縣、茨木縣、群馬縣、栃木縣、千葉縣、静岡縣、山梨縣、長野縣、新潟縣、福島縣、宮城縣
神戶	兵庫縣神戶市	兵庫縣、岡山縣、鳥取縣、島根縣、廣島縣、香川縣、德島縣、高知縣、愛媛縣

函館	門司	長崎	大阪
北海道函館市	福岡縣門司市	長崎縣長崎市	大阪府大阪市
北海道、秋田縣、巖手縣、青森縣、樺太	山口縣、大分縣、福岡縣(但シ前掲長崎稅關管轄ノ部分ヲ除ク)	長崎縣、佐賀縣、福岡縣ノ内(久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潞郡、八女郡、山門郡、三池郡)熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣	大阪府、京都府、和歌山縣、奈良縣、三重縣、滋賀縣、福井縣、石川縣、富山縣、岐阜縣、愛知縣

註一、稅關支署所在地並管轄區域ニ就テハ大正十三年十月勅令第二四三號稅關出

稅關支署

稅關出張所
出張所

稅關監視署

國境稅關
海港稅關

(五) 稅關官吏

稅關ニハ既述ノ稅關事務ヲ行フ爲、稅關長及其他ノ官吏ヲ置ク。左ニ此等官吏中主ナルモノノ名稱並其ノ掌ル事務ヲ掲クヘシ。(稅關官制第三條以下參照)

- (一) 稅關長(勅任又ハ奏任)
大藏大臣ノ指揮ヲ受ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス。
- (二) 事務官(奏任)
稅關ニ分屬シ稅關長ノ事務ヲ助ケ又ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス。
稅關監視部長、港務部長(港長)、總務課長ニ補セラル。
- (三) 關稅官(奏任)
稅關支署長ニ補セラル、者ヲ除クノ外、上官ノ命ヲ受ケ稅關ニ於ケル經理ニ關スル事務ヲ掌ル。
- (四) 鑑査官(奏任)
稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢查鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス。各稅關ニツキ一名ハ檢查課長ニ補セラル。
- (五) 港務官(奏任)
上官ノ命ヲ受ケ開港々則及檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル。港務部長

ニ補セラル、コトアリ。

- (六) 植物檢查官(奏任)
上官ノ命ヲ受ケ植物ノ檢查及病菌害虫ノ研究調査ヲ掌ル。
- (七) 事務官補(判任)
稅關支署長タル者ノ外、上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス。
- (八) 監視(判任)
稅關監視部長若クハ稅關監視署長タル者ノ外、上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス。
鑑査官補(判任)
上官ノ指揮ヲ受ケ貨物ノ檢查鑑定ニ從事ス。
- (九) 監吏(判任)
稅關監視署長タル者ノ外、上官ノ指揮ヲ受ケ關稅警察犯則處分開港々則檢疫ニ關スル事務ニ從事ス。
- (十) 右ノ外醫官、醫官補、獸醫官、獸醫官補、港吏、植物檢查官補、藥劑手、技師、技手、臨

時職員タル檢疫員、檢疫醫、檢疫獸醫、保稅地域へノ派出官吏アリ。

(六) 稅關官吏ノ職權

稅關官吏ニ對シ關稅法規中其ノ職務ノ遂行上附與セラレタル特別ノ權利ヲ謂フ。之ニ稅關長ノミニ附與セララル、モノト、稅關長ヲ含ム一般稅關官吏ニ附與セララル、モノトアレト、前者ト雖、稅關長ノ命ヲ奉シテ一般稅關官吏カ之ヲ行使スルコトハ何等差支ナキヲ以テ、之ヲ受クル者ヨリスレハ同一ナリ。茲ニハ單ニ右ニ關スル法規ヲ掲クルニ止ム。

(一) 稅關長ノ職權

- (I) 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得、(法第五十三條)。
- (II) 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若クハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得、(法第五十四條)。
- (III) 稅關長ハ運送貨物ニ對シ、監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得、(法

第五十五條

- (III) 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得、(法第五十六條)。
- (V) 稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得、(法第五十九條)。
- (VI) 稅關長ハ犯則ニ繋ル差押物件カ腐敗其他損傷ノ虞アリト認メタルトキハ公賣ニ付シ、其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得、(法第九十條第三項)。

(二) 稅關官吏ノ職權

- (I) 稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得、(法第五十七條)。
- (II) 稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ノ檢查若クハ封鎖ヲ爲シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得、(法第五十八條)。

(Ⅲ) 税關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得(法第八十四條)。

(Ⅳ) 税關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキ、其開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得(法第八十五條)。

(Ⅴ) 税關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得(法第八十六條)。

(Ⅵ) 税關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ(法第九十條第一項)。

右ノ外保税倉庫、保税工場等ノ取締監督上認メラレタル職權アリ。以下夫々ノ個所ニ於テ説明スヘシ。

第四章

船舶ノ入出港ト噸稅

(一) 船 舶

船舶トハ貨物又ハ旅客ヲ運搬スル目的ヲ以テ水上ヲ航行スル一定ノ建設物ナリ。船舶ニ關シテハ關稅法ノ外、船舶法、海商法ニ於テ夫々定ムルトコロアリ、イツレモ其ノ規定ノ目的ヲ異ニスルヲ以テ必スシモ軌ヲ一ニセス。茲ニハ關稅法上必要ナル限リニ於テ説明セントス。(前掲松波仁一郎博士海法、第四〇頁以下、烏賀陽然良博士海商法前掲全集第二卷第三四七頁以下、太田正孝博士關稅行政論第二〇七頁以下參照)關稅行政上重要ナル船舶ノ分類ハ(一)外國貿易船ト沿海通航船(二)日本船舶ト外國船舶ノ二ツナリトス。關稅法上外國貿易船トハ外國貿易ノタメ外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ(法二三)換言スレハ内外國間ニ亘リ貨物又ハ旅客ヲ運搬スル船舶ノコトナリ。其ノ國籍、其ノ構造ヲ問ハス。次ニ沿海通航船トハ外國貿易船ニ非サル船舶即チ外國ニ航行セサル船舶ヲ謂フ。海商法上ノ船舶即チ商船(商法五三八一)ヲ二分シタル名稱ト知ルヘシ(船

船舶検査法施行細則第四十八條ノ分類ニ依ル四種ノ航路即チ遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路中前二者ニ從事スルハ概ネ外國貿易船ニシテ後二者ニ從事スルハ概ネ沿海通航船ナリ(註) 次ニ日本船舶トハ、(一)日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、(二)日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶、(三)日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナル者ノ所有ニ屬スル船舶、(四)日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民ナル者ノ所有ニ屬スル船舶、(五)舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナル者ノ所有ニ屬スル船舶ニシテ(船舶法、一)外國船舶トハ日本船舶以外ノモノヲ謂フ。各植民地ニ於テ船籍ヲ有スル船舶ハ其ノ植民地内ニ於テハ日本船舶ノ取扱ヲ受クルモ内地ニ於テハ右船舶法第一條ニ依ル日本船舶ト看做サス、外國船舶ノ取扱ヲ受ク。之ニ反シ内地ニ船籍ヲ有スル船舶ハ各植民地ニ於テモ日本船舶

トシテ取扱ハル(朝鮮船籍令一、三)其他。右二種船舶區別ノ實益ハ以下述フルトコロニ依リ判明スヘシ。

註 往時ニ於ケル郵船及商船ノ區別ニ就テハ武田氏前掲第一二八頁參照。

(二) 船舶ノ入出港

船舶ノ入出港ニ就テハ外國貿易船ト沿海通航路トニ依リ事情ヲ異ニス、即チ後者ハ開港不開港ヲ問ハス出入シ得ルモ前者ハ原則トシテ不開港ニ出入スルヲ得サルモノトス。而シテ其ノ目的ハ關稅行政上ノ取締ニ服スヘキ外國貨物ニ存スルヲ以テ沿海通航船ト雖外國貨物ヲ積載セル場合ニ於テハ外國貿易船同様ノ取締ニ服セサルヘカラス(法十二、十七)其他海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタル場合ニ就テハ後述外國貿易船ノ不開港入出ノ場合ト同シ。

(イ) 外國貿易船ノ開港ニ於ケル入出港

外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間以内(稅關休日ヲ算入セス)ニ稅關ニ入港届ヲナシ、積荷目錄、船口申

告書、船用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ、船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若クハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘキモノトス(法十)。開港ニ入港シタル事實ハ開港々則ノ施行セラル、開港ニ於テハ其ノ港界線ヲ通過セルコトニ依リ認定スヘク(開港々則第一條、第二七四條、其他ノ開港ニ於テモ之ニ準スヘキモノトス。猶此等ノ手續(後述出港届亦然リ)ハ貨物ノ積卸ヲ爲サシテ入港ノ時ヨリ二十四時間以内ニ出港スルトキハ之ヲ省略シ得ルモノトス(法一四)。要之外國ヨリ來ル貨物及旅客ニ對スル稅關ノ行政ハ先ツ此等ヲ積載スル外國貿易船カ、右ノ如キ入港手續ヲ爲スニヨリ開始セラル、モノトス。左ニ入港届及其他ノ書類ニ就キ説明スヘシ。

入港届

(a) 入港届 (Entrance Notice) 船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乗組海員ノ數ヲ記載シタル文書ナリ(施一七)

註 開港々則ニハ右ノ外着港届ニ關スル規定アリ(一五)、蓋シ港務部ノ稅關移管前ニ於テ實益存シタルモノナルヘシ。

積荷目錄

(b) 積荷目錄 (Ships Manifest) 船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載シタル文書ナリ(施一八)。但シ貨物中旅客携帶品、郵便物及船用品(船用品目錄ニ記載ス)ハ此限ニ在ラス。外國貨物ヲ積載セル船舶ハ積荷目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ、貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス、

但シ旅客携帶品及郵便物ハ例外トス、又一般ニ稅關長ノ認許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラストス(法一二)。右貨物ハ外國貨物タルト内國貨物タルトヲ問ハス、從テ外國貿易船ヨリ内國貨物ヲ積卸ス場合ニ於テモ亦然リ。至急ニ積卸ヲ要スルカ如キ場合ニハ前記稅關長ノ認許ヲ得ヘシ。認許ヲ得ルニハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記シタル申請書ヲ提出スヘキモノトス(施二〇)。積荷目錄カ貨物ト符合セサルトキハ、其ノ過失ニ因ルト否トヲ問ハス、船長ヲ處罰スヘキモノトス(法七七、八二)。但シ船長ハ稅關長ノ認許ヲ得テ、既ニ提出シタル積

船口申告書

(c) 荷目録ノ訂正補足ヲ爲シ得ヘシ(法一六)。
 船口申告書 (List of Hatches) 船舶ノ名稱及國籍、船口ノ所在、
 箇數ヲ記載シタル文書トス(施一九)。船口トハ船舶ニ於ケル
 貨物出入ノ口ナルヲ以テ、之ヲ申告セシメラ貨物積卸上ノ取
 締ニ資スルナリ。此ノ申告書ハ一度提出シタル船舶ハ船口
 ノ位置構造ニ變化ナキ限り、爾後ノ入港ニハ之ヲ省略セシム
 ルヲ我が税關ノ慣例トス。

船用品目録

(d) 船用品目録 (List of ships' stores) 船舶ノ名稱及國籍、船用品ノ
 種類、數量及見積價格ヲ記載シタル文書トス(施一九)。之レ船
 用品ハ貨物ニ關スル關稅法ノ規定ヲ適用セラレサルヲ以テ
 ナリ。

旅客氏名表

(e) 旅客氏名表 (List of Passengers) 船舶ノ名稱及國籍、旅客ノ國籍、
 氏名、乘込地及上陸地ヲ記載シタル文書トス(施一九)。旅客及
 旅客携帶品ニ對スル關稅行政上ノ取締ニ資ス。

船舶國籍證書

(f) 船舶國籍證書 (Vessel's Certificate of Registry) 無籍船舶トシテ
 ノ取扱ヲ受ケサランカ爲ニハ船舶ニ缺クヘカラサル證書ト
 ス。故ニ入港中之ヲ税關ニ預入レシメ、不正ノ所爲ナカラシ
 ムルノ擔保トス。

出港免狀

(g) 出港免狀 (Clearance Notice) 直前ノ仕出港ノ出港免狀トス。
 出港シタルコトヲ證明シ得ヘキ文書ヲ以テ代ルコトヲ得。
 入港船舶ノ取締特ニ尋問及船内検査、監船、船口封鎖及解除等ニ就テ
 ハ特ニ述ヘス(小林行昌博士税關論第三一九頁以下、武田氏前掲第一
 三六頁以下参照)。只外國貨物ノ積卸ニツキ一言スヘシ。貨物旅客
 ノ携帶品及郵便物ヲ除クノ積卸ハ積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シ
 タル後ニ非サレハ之ヲ爲シ得ス(法十二)。又日歿ヨリ日出マテノ間
 及税關休日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲
 スヲ得ス(法十七)。右特許ヲ受クルニハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量
 ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘク且ツ特許ヲ受ケタルトキハ特許

手數料ヲ納付スヘキモノトス(施二三、二四)。外國貨物ノ陸揚、船積其他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘキモノトス(法二八一)。(實際ノ取扱例ニ就テハ太田氏前掲第七三六頁以下參照)

外國貿易船出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港届ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘキモノトス(法一三)。出港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テス(施二一)。猶出港免狀ト共ニ入港ノ際預ケ置キタル船舶國籍證書及其他ノ書類ノ還付ヲ受クヘキモノトス(施二二)。蓋シ出港免許ハ當該港ニ於ケル船舶ノ關稅行政上ノ取締ヲ解除スルコトナレハナリ。

港務並檢疫行政

註、船舶ハ以上ノ如キ關稅行政上ノ取締ノ外ニ港務並檢疫行政上ノ取締ヲ受ク。前者ハ主要開港ニ於テ船舶ノ出入並碇泊ヲ安全ナラシムル爲港内ノ秩序維持ヲ目的トス、後者ハ人家畜及植物ニ對スル病害ヲ豫防シ又ハ之カ傳播ヲ防止スルヲ目的トシ、海港檢疫法ニ依ル海港檢疫、家畜傳染

病豫防法ニ依ル家畜檢疫及輸出入植物検査法ニ依ル植物檢疫ノ三ツトス。此等モ亦稅關ニ於テ行ハル、行政ナルヲ以テ形式的意義ニ於ケル關稅行政ノ一部タルヲ失ハサレトモ、本書專ラ説クところノ實質的關稅行政トハ全ク性質ヲ異ニス。從テ學問上ノ研究對象トシテモ之ヲ別段ニ取扱フヲ可トス。

(ロ) 外國貿易船ノ不開港ニ於ケル入出港

外國貿易船ハ原則トシテ不開港ニ出入スルヲ得ス(法一八一)。外國船舶亦然リ(船舶法三)。茲ニ不開港ニ出入ト謂フモ開港ニ於ケルトハ事情ヲ異ニス。船舶カ陸上ト交通シ貨物ヲ積卸シ得ヘキ状態ヲ總稱スト爲スヘシ。外國貿易船カ不開港ニ出入シ得ヘキハ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキニ限ル。不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ理由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ届出ツヘキモノトス(法一八一)。警察官吏此ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ地所轄ノ稅關又ハ稅關監視署ニ急報スヘキモノトス(施

二五。外國船舶モ海難若クハ捕獲ヲ避ケントスル場合ニハ不開港ニ出入スルコトヲ得。關稅行政上ノ取締ハ兩者同一ナリ。右ノ外國貿易船ニ對シテハ、船舶ノ修繕ノ爲メ、開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若クハ船積スル爲メ、又ハ開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚若クハ船積スル爲メ必要ト認ムルトキハ稅關長ハ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得ルモノトス(法九八)。

外國船主
ト梯送貿易

註、外國船舶ハ法律若クハ條約ニ別段ノ定ナキ限り日本各港ノ間ニ於テ物

品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス(船舶法三)。之レ日本船舶ノ沿岸貿

易權ト稱セラル、モノナリ。條約ニ關シテハ例ヘハ日英通商航海條約

第二十一條參照。所謂梯送貿易(Saifefahrt)ト稱セラル、場合ナリ。

(三) 噸稅

噸稅ハ國稅及消費稅ト共ニ稅關ニ於テ徵收スヘキ租稅ニシテ其ノ目

的ハ船舶ヲシテ港灣ノ各種設備ヲ利用セシムル報償ニ在ルヲ以テ之ヲ茲ニ述フルナリ。

註、現行噸稅法施行前ノ噸稅沿革トシテ船稅(安政四年日蘭追加條約)、碇泊稅(同年

日魯追加條約)入港手數料(安政五ヶ國條約附屬貿易章程)アリ。而シテ噸稅ハ

入港手數料ニ代リタルモノナリ。

噸稅(Tonnage Dues)トハ外國貿易船カ開港ニ入港シタルトキ其ノ港毎ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付七錢ヲ課スルモノトス。但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付二十一錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一ヶ年間噸稅ヲ納ムルヲ要セサルモノトス(噸稅法一)。左ニ之ヲ分說スヘシ。

(一) 噸稅ハ外國貿易船ノ開港ニ入港シタル事實ニ課セラル。此ノ場合ノ入港ハ入港届ヲ爲シタルト否トヲ問ハス、苟クモ入港ナル客觀的事實存スルトキハ課稅セラル、モノトス。從テ前述貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時間以内ニ出港スル場合

ハ入港届ヲ必要トセサルモ(法一四)噸稅ハ納付スルヲ要スルナリ。但シ海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル場合ハ噸稅ヲ課セサルノ例外アルコトニ注意スヘシ(噸三)。

(三) 噸稅ハ一港ニ對シ且ツ船舶ノ容積即チ其ノ登簿噸數ニ依リ課ス。帝國ト測度法ヲ異ニスル場合ニハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算スルモノトス(噸一、二)。稅關長ハ必要ト認ムルトキ(疑アル場合)船舶ノ測度ヲ爲シ得ルモノトス(噸四)。

(三) 噸稅ノ納付ニハ右ニ記ス如ク入港毎ニ納付スル方法ト一ヶ年分ヲ納付スル方法トアリ。前者ノ場合一噸又ハ十石以下ノ端數ハ切捨ツルモノトシ後者ノ場合滿一ヶ年ハ噸稅納付ノ時ヨリ起算ス且ツ此一年中ニ稅率ノ變更アルモ改メテ納付スルノ要ナシ。

(四) 噸稅ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關又ハ稅關支署ニ納付スルモノトス(噸二)。納稅者ハ船長ナルモ負擔ハ船主、貨主、消費者ヘト漸次轉嫁セラルヘシ(間接稅)。

(五) 噸稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ハ其ノ逋脫ヲ圖リ若クハ納付セサリシ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處セラル(噸五)。

(四) 航空法機

航空機

船舶ニ關聯シ航空機ニ付附言スヘシ。航空機カ今日ノ船舶ノ如ク運搬具トシテ利用セラルルニ至ルハ必スシモ遠キ將來ニアラサルヘシ。我國ニ於テモ斯ル將來ニ於ケル國際運送ヲ豫想シ大正十年四月九日法律第五十四號ヲ以テ航空法ヲ制定、昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行セリ。同法ニ於テハ航空機ハ大體船舶ト同様ノ取扱ヲ受クルコト、ナリ、關稅法中船舶ニ關スル規定ハ多ク航空機ニモ準用セラル(航三九)。國際航空機カ着陸及離陸シ得ヘキ場所ハ行政官廳ノ指定スル所謂稅關飛行場(航三四)ナリトス。稅關飛行場ニ就テハ大體開港ニ關スル規定ヲ類推シ得ヘシ。

第五章
通
關
手
續

(一) 通關手續

茲ニ通關手續トハ凡ソ稅關ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル手續ヲ總稱スルモノニシテ、苟クモ稅關ヲ經由スル以上ハ輸入貨物タルト輸出貨物タルト又有稅貨物タルト無稅貨物タルトヲ問ハス總テ之ニ服スルコトヲ要スルナリ。然ルニ右ノ如キ一般手續ノ外ニ輸入貨物中有稅貨物ニ對シテハ、特ニ關稅賦課ニ關スル手續存ス。而シテ後者ハ一般手續ニ比シ手續煩雜ニシテ之ヲ同一ニ説明スルヲ不便トスルヲ以テ、本章ニ於テハ先ツ一般手續ヲ説キ、後者ハ次章以下ニ讓ルヘシ。

通關手續ハ輸出又ハ輸入ノ申告ニ始マリ、次テ貨物ノ検査ヲ經、最後ニ免許ニ終リ、別ニ又保稅地域ニ對スル貨物搬出入ノ手續ヲ伴フモノトス。右ノ中輸出入申告ノ受理並輸出免狀ノ發給ハ稅關總務課貨物ノ検査ハ同検査課、保稅地域ニ於ケル貨物ノ保管ハ同監視部ノ夫々掌ルトコロナルコトハ既ニ説明セリ。

貨物ノ輸出又ハ輸入ノ手續ヲ爲スニハ先ツ税關ニ對シ申告(Declaration, Erklärung)ヲ爲スコトヲ要ス。申告ハ文書ニ依リ且ツ所定ノ用紙ヲ以テスルコトヲ要ス。但シ旅客携帶品ノ輸出入ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得(施行規則第三十八條、第三十四條但書)。申告書ノ記載事項ハ輸出申告ニアリテハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向、港及仕向地、產地、輸出貨物外國產ナルトキハ(施行規則第三十四條)ニシテ、輸入申告ニアリテハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、產地、又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格、施行規則第三十七條)ナリ。又特種ノ關稅免除貨物ニ就テハ、輸出ノ場合ハ施行規則第三十四條第三項以下及第三十五條ニ、又輸入ノ場合ハ同第三十九條及第四十條ニ夫々特則アリ。猶積戻申告ハ輸出申告ニ準スルモノトス(法三八、施三六)以上申告書ハイツレモ貨物検査開始後ハ最早訂正補足ヲ爲スヲ得サルモノトス(法二五)。

輸出又ハ輸入ノ申告ヲ爲シ得ヘキ者ハ必スシモ輸出入者自身タル

ヲ要セス、税關貨物取扱人其他代理人ヲ以テスルモ可ナリ。又申告ヲ爲シ得ヘキ時期ニ關シテハ法令ニ特別ノ規定ナシト雖、コノコトハ實ハ輸入ノ場合ニ於テハ關稅法第三條ニ關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハル、法規ニ從ヒ之ヲ課ストアルヲ以テ重要ナル意義ヲ有ス。蓋シ輸入稅率引上ノ場合ノ如キ輸入申告ノ遲速ハ直チニ納稅額ニ影響スルヲ以テナリ。斯ル場合税關ハ貨物ヲ積載シタル船舶入港シテ入港届ヲ提出シタル後ニ非サレハ輸入申告ヲ受理セサルヲ原則的取扱トスルモ、時ニ善意ノ輸入者ヲシテ關稅引上ニ因ル豫期セサル關稅ノ負擔ヲ免カレシムル爲メ特別ノ處置ノ構セラル、コトアリ。

輸入申告書ノ記載事項ハ正確ヲ期セサルヘカラス。法律ハ之カ爲メ仕入書(Invoice)ヲ添付スルコトヲ命シ(法第三十二條)又税關ノ取扱トシテ更ニ明細書(Specification)(註)ヲ要求スルコトナキニ非ス。茲ニ仕入書トハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成セラレ、且貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノタルコトヲ要スルモ(所謂元地送狀 Original invoice 施規三十七ノ二)

海外駐在本邦領事ノ證明アルモノ(所謂領事證明仕入書 Consular invoice)タルコトハ其ノ要件ニ非ス。若シ右仕入書ノ添付ナキトキハ後日稅關長ニ對シ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス(法第三十二條Ⅰ)。勿論右ノ要件ヲ具備セル仕入書ハ當該貨物カ本邦ニ到着シタル後賣買契約成立シタル等ノ場合ニ於テハ之ヲ添付シ得サル事情アルヲ以テ之カ不添付ヲ容認スル旨ノ規定ヲ設ケタリ(法三十二但書)。仕入書ノ記載事項ニ就テハ關稅法上何等ノ規定ナキモ商慣習上積載船舶貨物名、記號、數量、價格、賣渡人、買受人等ヲ記スモノトス。

註 明細書トハ仕入書ノ内容ヲ一層詳細ニ記述シタルモノナリ。複雑ナル貨物ノ申告ニ際シ之ヲ添付シ貨物検査官ノ參考ニ供シ通關ノ促進ニ資スルモノナリ。猶此等書類ノ作成ニ當リ注意スヘキ點左ノ如シ。(一)貨物ハ一口ニ就キ一書類トナシ記載事項ハ訂正抹消セサルコト。(二)貨物ノ名稱ハ輸入稅表記載ノ名稱ニ依ルヘク特ニ總名稱例ヘハ雜貨ヲ避ケ個別名稱ヲ用フルコト、猶品名不明ノ際ハ其ノ用途ヲ記スコト。(三)貨物ノ數量ハ從量

稅ノ標準タルモノナルヲ以テ輸入稅表記載ノ課稅單位ニ依ルヘキコト。
 (四)貨物ノ價格ハ所謂到着價格(定率法第二條)ノ認定ニ便ナラシムルタメ、原價ニ荷造費、運賃、保險料、其他輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加ヘ之ヲ邦貨ニ換算スルコト。

右書類ノ外、輸入貨物中協定稅率ノ適用ヲ受クルモノ(法一)ハ右協定ノ適用ヲ受クヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明シタル所謂製產原地證明書(Certificate of Origin)ヲ提出スルヲ要ス(但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此限ニ在ラス)〔施一〕。右證明書ハ「貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官署又ハ商業會議所ノ證明シタル」モノナルコトヲ要シ且ツ「貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載ス」ルコトヲ要ス〔施二〕。

稅關ニ於ケル貨物ノ検査ハ其ノ數量大ナルモノニアリテハ概ネ指定検査又ハ部分検査ヲ行フ。正確ナル仕入書、明細書ノ提出セララル

製產原地證明書

検査

構外派出検査

場合殊ニ然リ、検査ノ範圍ハ主トシテ貨物ノ數量及價格ニ關ス。検査ノ場所ハ税關所定ノ税關構内其他保税地域内ニシテ、輸入申告者又ハ其ノ代理人立會ノ下ニ行ハレ、貨物ノ包装開閉等ニ要スル費用ハ申告者ノ負擔トス。税關所定ノ場所以外ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキハ、其ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載セル申請書ヲ税關ニ提出シ特許ヲ受ケ且ツ所謂構外派出検査特許手数料ヲ納付スヘク、旅費ヲ要スルトキハ其ノ實費ヲモ支辨スルコトヲ要ス施規、三三、實例、本船引取、解船引取及日支聯絡船ノ船上検査)

重要輸出品検査

税關ニ於ケル貨物ノ検査ニ關聯シ説明スヘキハ粗製濫造品ノ輸出防止ヲ目的トスル重要輸出品ノ検査ナリトス。即チ我カ法制上製帽用真田、燐寸、硝子製品ノ一部、鐵板製珧瑯鐵器、莫大小製品ノ一部、刷毛、セルロイド製品ノ一部、鉛筆及鉛筆心、綿織物ノ一部及人造眞珠ハ重要輸出品ト稱セラレ(昭和三年七月九日商工省令重要輸出品取締規則第一條)此等ノ品ヲ輸出スルニハ商工大臣ノ定ムル検査標準ニ依ル検査ニ

免許

合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得サルモノトスルモ、右ノ検査ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ組合若クハソノ聯合會又ハ道府縣ノ直接行フトコロニシテ(前掲第二條)税關ハ只其ノ検査濟證明ノ有無ヲ檢スルニ過キサリナリ。其他、イバラ、蟹罐詰、柑橘、花蕊、石鹼、絹織物ニ關シ夫々當該組合、検査所等ニテ行ヒタル検査ニ付キテモ亦同シ。(大正十三年農商務省令第十九號輸出イバラ、蟹罐詰取締規則。大正十三年農商務省令第二十二號輸出柑橘取締規則。明治三十八年勅令百六十一號花蕊検査規則。大正四年農商務省令第十號。昭和二年三月法律、輸出絹織物取締法參照)

輸出入ノ免許アリタルトキハ輸出入免狀下附セラル。輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ積出スルコトヲ得ス。即チ之ヲ船車ニ積載スルコトヲ得ス(法三七)。又輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス。但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ免許前ト雖引取ヲ爲スコトヲ

得(法三四)。此ノ場合ニハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關總務課ニ提出スルコトヲ要ス(施四二)。

次ニ貨物ノ手續ニ伴フ保稅地域ニ對スル搬出入手續ヲ述フヘシ、貨物ヲ輸出又ハ輸入スルニ當リ一時藏置ノ爲之ヲ保稅地域ニ搬入セントスルトキハ稅關ニ對シ之ヲ届出ツヘク之ヲ搬出セントスルトキ亦同シ。藏置ノ場所ハ稅關ノ指揮ニ從フヘク又右期間中ニ於ケル貨物ノ移動、貨物保存上必要ナル行爲其他貨物ノ記號、番號、仕向地名等ノ訂正等ニ關シテハ其ノ都度稅關ノ認許ヲ受クヘク、又貨物ノ見本ヲ採取セントスルニ當リテモ稅關ニ之ヲ申請シテ認許ヲ受クヘキナリ。

以上ノ一般貨物ニ對スル通關手續ニ對シ例外ヲナスモノニ郵便物アリ。即チ郵便物ノ輸出入ニハ輸出入者ニ於テ申告、免許ノ手續ヲ履行スルヲ要セズ、郵便局ニ於テ直接之ヲ積込ミ又ハ引取ルモノトス。唯小包郵便及價格表記箱物輸入ノ場合ニハ郵便局ヨリ稅關ニ通知シ稅關官吏郵便局員立會ノ上内容ヲ檢査シ關稅ヲ賦課スヘキモノアル

保稅地域搬
出入手續

郵便物

トキハ郵便局ヨリ受取人ニ對シ稅付郵便物到着通知書ヲ發信ス。受取人ハ右ノ通知書ニ稅金額ニ該當スル收入印紙ヲ貼付シテ提出スルコトニ依リ郵便局ヨリ郵便物ヲ受領シ得ルナリ。

(二) 稅關貨物取扱人

稅關ト交渉ヲ有スル輸出入事務ハ、必ズシモ未タ一般ニ知得セラレズ、相當長年月ノ經驗ヲ有セサル限り、圓滑ナル遂行ヲ期スルコト困難ナリ。稅關ニ於テモ亦關稅ノ賦課、徵收等ノ事務ヲ不熟練ナル貿易商ヲ相手トシテナスハ不便ナリ。茲ニ於テ斯ル通關事務ニ關シ稅關ト貿易商トノ間ニ介在シ、兩者ノ連絡ヲ圖ルコトヲ營業ト爲ス者生ス、稅關貨物取扱人 (The customs broker) ト稱スルハ即チ之ナリ。我國ニ於テハ此ノ營業ハ私設保稅倉庫營業等ト同シク所謂免許營業ニ屬ス。之ヲ定ムル法規ニ稅關貨物取扱人法(明治三十四年四月十三日法律第二十八號、同年七月一日ヨリ施行)及稅關貨物取扱人法施行細則(明治三十

四年五月二十七日大藏省令第八號同年七月一日ヨリ施行、大正九年十二月大藏省令第五〇號ヲ以テ改正、同十年四月一日ヨリ施行アリ。以下右規定中ヨリ重要ナル部分ヲ掲ケ説明ノ資料ト爲ス。

(一) 稅關貨物取扱人ノ性質、稅關貨物取扱人(以下略シテ單ニ取扱人ト謂フ)トハ貨主ノ爲ニ自己又ハ其ノ貨主ノ名ヲ以テ稅關ニ對シ貨物ニ關スル手續ノ取扱ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ(取一)、取扱人タルニハ(一)剝奪公權者及停止公權者、(二)身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分産若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權スルニ至ル迄ノ者、(三)國稅滯納處分ヲ受ケ滿一箇年ヲ經過セサル者、(四)重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及關稅法第七十四條乃至第七十六條ノ規定ニ違反シ處罰ヲ受ケ滿三ヶ年ヲ經過セサル者(取三)ニ該當セサルコトヲ要シ、且ツ其ノ業務ニ從事セムトスル地ヲ管轄スル稅關長ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス(取二)、猶之ニ關聯シ施一參照)

免許ヲ受クルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ免許料ヲ納ムルヲ要ス(取二、I)、即チ稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘク且ツ免許料ハ貳拾圓トシ收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得(施細二、三)右ノ手續ヲ以テ取扱人カ免許ヲ得ルモ、實際ニ開業ヲ爲スタメ(取五、I)ニハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證トシテ金錢又ハ有價證券ヲ提供スルコトヲ要シ(取五)、其ノ身元保證金額ハ五千圓以上(取五但書)トス。現在此ノ身元保證金額ハ五千圓トシ、免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ、右金額又ハ之ニ相當スル國債ヲ提供スルモノトス(施四猶六參照)。斯クノ如キ條件ハ後述ノ如ク取扱人カ稅關竝貨主ニ對シ重大ナル物的責任ヲ有スルヲ以テ相當ノ資力アル者ノミニ之カ免許ヲ與ヘントノ趣旨ナリ、猶廢業ニ就テハ別段規定ナキモ、稅關ヘノ申請ニ基キ免許ノ取消ヲ受ケ、供託物ノ返還ヲ受クルモノト謂ハサルヘカラス。

(三) 稅關貨物取扱人ト稅關トノ關係。

- I 取扱人ハ其ノ業務ニ關シテ所轄稅關長ノ監督ヲ受ク(取四)
 - II 取扱人稅關ニ納付スヘキ金錢ヲ納付セサルトキハ稅關ハ身元保證物ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(取六I)
 - III 取扱人ハ取扱料ノ最高額ヲ定メ所轄稅關長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更スルトキ亦同シ(取九)
 - III 取扱人其ノ業務ニ關スル法令ニ違反シ又ハ稅關長ノ職權ニ基ケル命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ其ノ營業ヲ停止シ若クハ其ノ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得、但シ營業停止ノ期間ハ三箇月以内トス(取十)
 - V 前條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得(取十一I)
- 前項ノ處分ニ因リテ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(取十一II)

VI 取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタル行爲ハ取扱人ノ行爲ト看做ス(取十三、施七、八參照)

(三) 稅關貨物取扱人ト貨主トノ關係。

- I 取扱人ノ業務上ノ過失ニ因リ損害ヲ受ケタル貨主ハ其ノ債權ニ付他ノ債權者ニ先チ身元保證物ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス(取六I)
- I 取扱人ハ貨物ノ受取引渡、保管及運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其ノ貨物ノ取扱料ヲ請求スルコトヲ得ス(取七)
- III 取扱人ハ取扱貨物ニ關シ受取ルヘキ取扱料、税金其ノ他委託者ノ爲ニ爲シタル立替ニ付テノミ其ノ貨物ヲ留置スルコトヲ得(取八)

第六章 輸入ノ許否ト關稅ノ賦課

輸入自由

(一)

概説 外國ヨリ輸入セラル、貨物ヲ區別シテ輸入禁止貨物ト輸入自由貨物トニ爲スコトヲ得。前者ハ國家カ法律ニ依リテ其ノ輸入ヲ禁止シタル貨物ニシテ、後者ハ輸入ヲ許セル貨物ナリ。次ニ輸入自由貨物ヲ分チテ輸入無稅貨物ト輸入有稅貨物トニ分ツコトヲ得。前者ハ其ノ輸入ニ當リ國家カ關稅ヲ賦課セサル貨物ヲ稱シ、後者ハ輸入ハ許可スルモ國家カ之ニ一定率ノ關稅ヲ賦課スル貨物ナリ。更ニ有稅貨物ノ中ニモ免稅貨物ト稱シ一定ノ條件又ハ狀態ノ存スルトキ國家カ關稅ヲ免除スルモノアリ。若ハ戻稅貨物ト稱シ同様ノ場合ニ既ニ納付シタル關稅ヲ拂戻スルモノアリ。關稅ニ關スル實體的法規ハ關稅法ト關稅定率法ナルカ、本章説明スルカ如キ輸入ノ許否、關稅ノ賦課、稅率ニ關スル事項ハ專ラ關稅定率法並同附屬別表ノ定ムルトコロナリ。

無稅ト有稅

輸入禁止

(二)

輸入禁止品。國際交通ノ自由ハ國際法上ノ原則ニシテ、今日ニ於テハ一國カ他國ト一切ノ貨物ノ交通ヲ爲サ、ル主義ヲ採ルコトハ不可能ナリ。然シナカラ他方一國カ自國ノ存立上必要トスル或種ノ貨物ノ

輸入ヲ禁止又ハ制限スルコトハ固ヨリ妨ケナキトコロナリ。國防公安、公衆衛生、動植物ノ疾病、品種ノ低下、種族保存防止、産業上、文學上乃至美術上ノ無體財產權保護又ハ不正競争防止等ノ目的ニ出ツルモノ之ナリ。次ニ産業保護ノ目的ニ出ツル禁止ハ世界大戰前後ニ再現シタルモ、今日ニ於テハ概ネ撤廢セラレタリ。

註、世界大戰後ノ各國ノ輸出入禁止並制限ニ關シテ一九二五年六月國際商業會議所發行ノ Progress in Economic Restoration (大阪商工會議所譯、歐洲戰後ノ復興ト各國經濟政策第二九三頁以下)ヲ参照スヘシ。

輸出入禁止及制限ニ關スル條約

一九二七年十一月八日調印輸出入禁止及制限ニ關スル條約ニ我國ハ米及染料ヲ保留シテ調印セリ。猶米ノ輸入制限ニ就テハ米穀統制法參照。

輸入制限

我國ニ於ケル輸入禁止品モ殆ント右前者ニ屬スルモノニシテ、關稅定率法第十一條ヲ始メトシテ各種ノ法令ニ於テ認メラル、此ノ中ニハ右ノ如キ絶對的輸入禁止ト輸入制限即チ特許ヲ得ルニ非サレハ輸入シ得サル場合トアリ。之カ違反ニ對シテハ體刑、罰金、科料ノ制裁アリ。

茲ニハ定率法第十一條ノ禁止品ノミヲ掲ク。

- (一) 阿片及阿片吸煙具、但シ政府ノ輸入スルモノヲ除ク。
- (二) 偽造、變造又ハ模造ノ貨幣、紙幣、銀行券及有價證券。
- (三) 公安又ハ風俗ヲ害スヘキ書籍、圖書、彫刻物其他ノ物品。
- (四) 特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ヲ侵害スル物品。

輸入稅表

(三)

輸入稅表。輸入禁止又ハ制限貨物ニ非サルモノハイツレモ輸入自由貨物ナリ。而シテ一國ノ輸入品ハ實ニ千差萬別ニシテ然カモ時代ト共ニ益々新規品ノ發生ヲ觀ルノ状態ナルカ、斯ノ如キ凡テノ輸入貨物ヲ豫定シ、夫々ニツキ有稅、無稅ノ區別ヲナセルハ一國ノ現行輸入稅表ナリ。

輸入稅表トハ一國ノ凡テノ輸入貨物ニ對シ、夫々輸入稅率ヲ定メ、之ヲ組織化セルモノナリ。

關稅定率法附屬別表ト稱セラレ、モノ之ナリ。

稅率ノ組織

元來稅率ノ組織 (Zolltarifsystem) ニハ大體左ノ如キ種類アリ (Gruntzel, a.

a. O. S. 318—327)

(1) 單一稅則 (Einheitstarif)

(11) 二重稅則 (Doppelarif)

(1) 國定及協定稅則 (Allgemeine od. General-u. Vertrags-od. Konvention-
arif)

(2) 最高及最低稅則 (Maximal-und Minimalarif)

單一稅則

單一稅則トハ唯一ノ稅率ヲ制定シ之ヲ凡テノ輸入國ニ平等ニ適用
スルモノニシテ如何ナル國ニ對シテモ例外的特惠ヲ與ヘサルモノヲ
謂フ。而シテ此ノ稅率ハ多ク國定ナルヲ以テ一名 Autonomer Tarif ノ稱
アリ。(支那ノ如キ協定單一稅則ハ同國特殊ノ事情ニ依ルモノニシテ
單一稅則ニハ相違ナキモ茲ニ謂フ單一稅則トハ其ノ精神ヲ異ニス)
單一稅則ハ自國本位ニ稅率ヲ定ムルモノナレハ輸入ノ統制ニハ可ナ
ランモ輸出ノ促進ニハ不可ナリ。近時列國ノ大勢ハ概ネ輸出貿易ノ
發展ヲ以テ政策ノ基調トナセルヲ以テ、各國相互ニ通商條約ヲ締結シ

關稅上ノ協定ヲ爲スニ至ル。單一稅則ヲ採用スルニ於テハ斯ル協定
ニ參加スルニ支障ヲ來ス。此ノ障害ヲ排除シ然カモ猶單一稅則ヲ維
持スルノ方法トシテ、關稅條約ノ内容ヲ法律ヲ以テ單一稅則中ニ挿入
スルコト一二諸國ニ行ハレタレトモ、斯クテハ條約ニ依ル協定稅率カ
無條約國ニモ適用セラル、コト、ナリ不都合ナルノミナラス、特惠ノ
範圍徒ラニ擴大シ其ノ效用ヲ稀薄ナラシムルノ弊アリ。英國ハ從來
此ノ稅則ヲ保持シ來リシカ、世界大戰後從來ノ財政關稅ノ外ニ數多ノ
保護關稅設定セラレ且ツ植民地ニ對シ特惠關稅ヲ認ムルニ至リタル
ヲ以テ著シク事情ヲ異ニセリ。白耳義ハ一八六五年以來世界大戰迄
前記ノ如ク自主的稅率ト其後ノ條約ニ依ル改正稅率トヲ等シク單一
稅則中ニ規定シタレトモ同國ハ元來仲繼貿易上ノ利益ノ爲殆ント凡
テノ通商國ト條約ヲ締結シ居リシカ爲單一稅則ノ弊尠カリシカ如シ。
其他北歐諸國ニモ久シク此ノ稅則ヲ採リタルモノアリ、今日ニテモ未
開、半開ノ諸國ニハ猶存スヘシ。

國定及協定稅則

次ニ二重稅則中國定及協定稅則トハ一般的稅率ヲ國定トシ、條約國及最惠國條款ヲ認ムル國ニ對スル稅率ヲ協定トスルモノナリ。此ノ稅則ノ目的ハ一方ニ於テ國定稅率ヲ以テ輸入ノ統制ニ備ヘ、他方自國輸出貨物ニ對シ好意的稅率ヲ適用シ又ハ適用セントスル外國ニ對シテハ其ノ輸入貨物ニ對シ特惠ヲ與ヘ以テ輸出ノ促進ニ資セントスルナリ。此ノ稅則ハ嘗テピスマルクノ時代獨逸カ試ミシ以來、奧國、伊太利、瑞西、チエツクスロハキア、匈國等ノ採用スルトコロニシテ、我國亦然リ。國定稅率ト協定稅率トノ關係ハ後者カ前者ニ比シ一定ノ比率ヲ以テ低キヲ常トスルモ必スシモ然ルニ非ス。又協定稅率ハ關稅ノ輕減(Ermäßigungen)ニノミ存セス、現行關稅率ヲ變更セサル義務ヲ負フニ止マルコトアリ(Bindung der Zollsätze nach oben od. nach unten)。猶協定稅率ニハ片務ト双務トアリ。前者ハ一方ノ當事國ノミ相手國ヨリノ輸入貨物ニ對シ協定稅率ヲ認メ相手國ハ之ニ相當スル協定ヲ認メサル場合ニシテ、後者ハ兩當事國カ相互的ニ之ヲ認ムル場合ナリ。片務協定ハ

最高最低稅則

我國カ開國以來明治時代ヲ通シテ體驗シタルトコロナリ。次ニ最高最低稅則トハ最高、最低ノ兩稅率ヲ等シク法律ヲ以テ定ムルモノナリ。而シテ最高稅率ハ無條約國一般ニ適用シ、自國ニ對シ低率ヲ協定セル相手國竝最惠國條款ヲ認ムル國ニ最低稅率ヲ適用セントスルナリ。最高最低稅則ハ一般ノ貨物ニ對シ此ノ兩稅率ヲ定ムル場合ト、特定ノ貨物ニ對シテノミ之ヲ定ムル場合トアリ。佛蘭西ハ前者ニ據リ、獨逸ハ後者ニ據ル。

獨逸ノ部分的
最高最低稅率

註一、獨逸關稅定率法(一九〇二年十二月發布第一條ニハ左記穀類ノ稅率ハ協

定ヲ以テ下欄記載ノ稅額以下ニ輕減スルコトヲ得ス)ト定メ裸麥ハ百基

(Doppelzentner)ニ付五〇〇馬克、小麥及獨逸小麥(Speis)ハ同五・五〇馬克、大

麥ハ同四・〇〇馬克、燕麥ハ同五・〇〇馬克トセリ。之カ目的ハ來ルヘキ條

約ノ取極ニ於テ農業方面ノ利益ヲ確保シ置キタルナリ。奧匈國モ一九

〇六年二月ノ法律ニテ之ニ倣ヒタリ。世界大戰開始ノ當時此等兩國ノ

穀物關稅ハ撤廢セラレ戰後ハ最低稅率施行セラルト謂フ(Grundz. a. a.

O. S. 826.)

加奈陀ノ三重稅

註二、一九〇七年四月發布加奈陀關稅定率法第三條ハ英國特惠稅率 (British Preferential Tariff) 中間稅率 (Intermediate Tariff) 及一般稅率 (General Tariff) ノ三重稅率ヲ規定シ、第一ノ稅率ハ英本國、英領印度、海峽植民地、錫蘭、新西蘭、喜望峯、ナタール其他英領植民地及領有地ヨリ輸入セラル、貨物ニ適用シ、第二ノ稅率ハ前掲以外ノ英領地並加奈陀ニ對シ特惠ヲ認ムル外國ヨリ輸入セラル、貨物ニ適用シ、第三ノ稅率ハ第一、第二稅率ノ適用セラレサル一般ノ國ヨリ輸入セラル、貨物ニ適用スヘシトセリ。之レ母國及他ノ植民地ニ對シ一般條約國ニ與フル以上ノ特惠ヲ與ヘ大英帝國内ノ貿易ヲ密接ナラシメンカ爲ナリ。濠洲ニテモ一九二〇年之ニ倣ヘリ。

貨物分類ノ方法

輸入稅表ノ組織ハ各國夫々特長ヲ有ス。蓋シ各國經濟發展ノ尺度ヲ示スモノト謂フヘシ。概說スレハ關稅收入ニ重點ヲ置ケル國ノ關稅率ハ簡單ニシテ商業政策的手段ニ重點ヲ置ケル國ノ關稅率ハ複雜ナリ。最モ單純ナル形式ハ單一稅則ノ稅表ナリ。此種ノ稅表ニ於テ

ハ凡テノ貨物ニ對シ其ノ種類、加工ノ程度、性質、仕出地等ヲ問ハス一律ニ一定ノ從價稅ヲ賦課スルニ過キス。暹羅、海峽植民地等ノ稅表之ニ屬ス。次ニ所謂 *Klassensystem* ナル稅表アリ。此ノ稅表ニアリテハ凡テノ貨物カ其ノ種類、品質等商品技術的見地ヨリ分類セラル、ニ非スシテ、關稅率ノ高低ニ依リテ數多ノ部類ニ分タル、モノトス。南米各地ニ於テ行ハル。又凡テノ貨物ヲ「アルファベット」順 (*Alphabetische Anordnung*) ニ配列セル稅表モアリ。英國ノ如シ。然シ大多數ノ稅表ノ採用スルトコロハ以上ノイツレニモ非ス。專ラ商品技術的見地ヨリ貨物ヲ組織的ニ細別配列セルモノナリ。其ノ分類ノ標準トナルヘキモノヲ舉クレハ(一)原料ノ同一ナルコト (*Gleichartigkeit des Rohmaterials*)、例クハ棉製品、鐵製品、皮革製品ノ如シ。(二)製品ノ同一ナルコト (*Gleichheit des Fabrikates*)、其ノ使用セラレタル原料ノ異ルヲ問ハス。紙、機械ノ如シ。(三)工程ノ同一ナルコト (*Gleichheit des Arbeitsvorganges*)、化學製品ノ如シ。(四)用途ノ同一ナルコト (*Gleichheit des Verwendungszweckes*)、衣類、食料品、運搬具等

ノ如シ。其他佛蘭西ノ稅表ノ如ク自然科學的考察ヲ主トシテ貨物ヲ動物、植物、礦物及製造品ニ四大別スルモノアリ。右イツレノ方法ヲ採リテモ凡テノ貨物ヲ殘リナク合理的ニ分類スルコトハ至難ナルヲ以テ所謂雜品 (Verschiedene Waren) ノ項ヲ設クルニ至ル。猶此種ノ複雜ナル稅表ニ於テハ貨物及其ノ稅率ノ檢索ノ爲メ、稅表記載ノ凡テノ貨物ヲ商取引上ノ名稱ニ基キ「アルファベット」順ニ配列シ夫々稅目番號ヲ指示シタル公ノ表ヲ作製スルコトアリ。(主務官廳ノ命令ノ形式ニテ發布スルヲ常トス)所謂 Amtliches Warenverzeichnis, Gebrauchstarif, tarif officiel, répertoire, official guide 等ト稱セラル、モノ之ナリ (Gruntzel, a. a. O. S. 312—315.)

我カ稅表

右ノ中我カ稅表ハ國定協定稅則ニ據リシモノニシテ、輸入貨物ニ對シテハ原則トシテ定率法附屬別表中ノ該當國定稅率カ適用セラレ、條約ニ依リ特ニ稅率ノ協定アル場合ニ限り、例外トシテ右協定稅率カ適用セララル、ナリ。

我カ關稅率ノ沿革

關稅法第一條ニ輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル「トアリ又關稅定率法第一條ニ外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニヨリ關稅ヲ課ス」トアルハ即チ之ヲ定メタルモノナリ。猶國定稅率トシテハ右定率法附屬別表以外ニ大正十三年七月發布ノ贄澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律アリ。

我カ關稅率ハ開港ヨリ今日ニ至ル迄尠クトモ四回根本的改正ヲ施サレタリ。即チ第一回ハ安政五ヶ國條約、第二回ハ明治三十二年ノ改正、第三回ハ明治四十四年ノ改正、第四回ハ大正十五年ノ改正ナリ。我國ハ徳川時代ノ鎖國狀態ヨリ俄カニ外國ヨリ通商ヲ要求セラレ罷ムヲ得ス之カ交渉ニ應シタル爲メ當時ノ政府當路者ハ之カ取極ニ關シ知識經驗ニ乏シク諸般ノ關係ニ於テ不利益ナルコト多カリキ。斯クノ如ク我カ關稅制度ノ濫觴カ全ク外國トノ協定ニ基キタルモノニシテ我カ國カ當初ヨリ自主的ニ定メタルモノニ非サルコトハ我カ現行關稅法規ノ解釋ニ就テモ大ニ注意スヘキコトナリ。兎ニ角スル不利

益ナル協定ヲ改メ我國ヲシテ關稅自主權ノ行使ヲ自由ナラシメントノ希望ハ明治歷代政府ノ最モ努力シタルトコロナリ。歷代ノ當局ハ失敗ニ失敗ヲ重ネ漸ク陸奧外務大臣ノ時代ニ右條約ノ改正ニ成功シ、明治三十二年始メテ我カ法律ニ依リ定メラレタル關稅定率法並附屬稅表ノ實施ヲ觀ルニ至レリ。斯クテ始メテ稅權ノ形式的回復ハ出來タルモ、當時未タ新タナル國定稅率以外從來ノ協定稅率殘存シ然カモ此等ハイツレモ片務ノ協定ニシテ實質上我國ニ不利ナル點多カリキ。茲ニ於テ我カ政府ハ右協定條約ノ期限滿了(明治四十四年)ノ機ニ臨ミ一層有利ナル改正ヲ爲スヘク各般ノ調査ヲ行ヒタリ。偶々三十七八年ノ日露戰爭ノ戰捷ハ右ノ爲ニモ我國ニ好影響ヲ與ヘ遂ニ明治四十三年改正ノ關稅定率法ニ基キ四十四年小村條約成立セリ。之ニ依リテ我國ハ大體ニ於テ從來ノ片務協定ニ依ル不利益ヨリ免カル、コトヲ得テ實質的ニモ稅權ノ回復成レリ。右時期以後大正時代ニ至リ我國ノ經濟的發展ハ年一年著シク殊ニ世界大戰ノ影響ハ我國未曾有ノ

現行稅表
改正ノ方針

貿易ノ發達ヲ齎セシカ此ノ新タナル產業狀態ニ順應スヘク關稅ノ一般的改正ヲ爲スヘシトノ朝野ノ輿論ニ從ヒ成立セシモノ即チ大正十五年改正ノ現行稅表ナリ。改正ノ方針ニ關シ當時政府カ議會ニ提出セシ理由書ニ掲クルトコロ左ノ如シ。

- (一) 我邦ニ生産ナキカ又ハ生産ニ乏シキ原料品ニ付テハ現行稅率ノ通り無稅又ハ低稅ヲ据置クノ外新タニ之ヲ無稅トスルコトニ努ムルコト。
- (二) 重要產業ニシテ今尙發達ノ道程ニアルモノ及將來新タニ成立ノ見込アルモノニハ外國品ノ競争ニ對シ必要ナル程度ノ保護ヲ與ヘルコト。
- (三) 事業ノ基礎鞏固ナルカ又ハ我國ノ生産豐富ニシテ外國品トノ競争ニ堪ヘ得ルモノニ對シテハ或ハ稅率ヲ輕減シ若ハ現行稅率据置ノ方針ヲ採ルコト。
- (四) 國民生活ノ必需品ニ對シテハ稅率ヲ輕減シテ成ルヘク低稅ト

シ現行稅率ヲ据置クコト。
 (五) 嗜好的消費ニ屬スル物品ニ對シテハ其ノ消費ヲ抑制スル趣旨ヲ以テ相當ノ高稅ヲ課スルコト。

我カ輸入稅表ノ體裁ハ、第一段ニ番號、第二段ニ品目、第三段ニ單位、第四段ニ稅率ト稱スル記載事項ヲ設ク。第一段ノ番號ハ單ニ第二段ノ各品目ノ順位ヲ示シタルノミ。之カ第一號カラ第六百四十七號迄アリ。此ノ各稅番ノ中ヲ更ニ一層細別シ居ルヲ以テ、品目ノ分類ハ千五百ニ及ヘリ。斯ノ如ク稅率ノ分類カ複雜トナルハ、固ヨリ人類慾望ノ增進ニ伴フ財貨ノ增加ニモ因レト、他面各國ノ關稅政策上ノ事情、就中從量稅ノ採用等ニモ因ルモノニシテ、之カ國際交通ノ障害ノ一因ヲ爲スコトモ亦明ラカナル事實ナリ。先年ノ國際經濟會議ニ輸入稅目ノ單純化カ提唱セラレタルハ之カ爲ナリ。

我カ稅率ハ右ノ如キ複雜ナル品目ヲ左ノ十七類ニ分類シ以テ檢索ニ便ス。

我カ輸入稅表ノ組織

稅表ノ分類

- 第一類 植物及動物(生活力ヲ有スルモノ) 一——一一
- 第二類 穀物、穀粉、澱粉類及種子 一二——三〇
- 第三類 飲食物及煙草 三一——六八
- 第四類 皮毛、骨、角、齒、牙、甲殼類及其ノ製品 六九——九四
- 第五類 油、脂、蠟及其ノ製品 九五——一二一
- 第六類 藥材、化學藥、製藥、其ノ調合品及爆發藥 一二二——二三五
- 第七類 染料、顏料、塗料及填充料 二三六——二七〇
- 第八類 絲、縷、繩、索及同材料 二七一——二九七
- 第九類 布帛及布帛製品 二九八——三四三
- 第十類 衣類及同附屬品 三四四——三六〇
- 第十一類 製紙用パルプ、紙、紙製品、書籍及繪畫 三六一——四〇一
- 第十二類 礦物及礦物製品 四〇二——四三五
- 第十三類 陶磁器、硝子及硝子製品 四三六——四五七
- 第十四類 鑛及金屬 四五八——四七六

- 第五類 金屬製品 四七七—五二五
- 第六類 時計、學術品、銃砲、車輛、船舶及機械類 五二六—六〇五
- 第七類 雜品 六〇六—六四七

關稅義務主義
關稅免除主義

輸入稅表上關稅賦課ノ根本方針ニ二主義アリ。一ヲ關稅義務主義 (Prinzip der Zollpflicht) ト稱シ、他ヲ關稅免除主義 (Prinzip der Zollfreiheit) ト稱ス。前者ハ稅表中ニ「無稅」ト特掲セララル無稅品以外ハ凡テ有稅品ナリト爲ス主義ニシテ、後者ハ稅表ニ稅率ノ明示アルモノノミガ有稅品ニシテ、他ハ凡テ無稅品ナリト爲ス主義ナリ(例、英國)。我カ稅表ハ他ノ大部分ノ國ト同様前者ニ據レリ。而シテ稅表ニ特掲ナキ貨物 (Zollfreigezeichneten Waren) ノ稅率ニ就テハ右各分類ノ末尾稅番ニ當該分類ニ屬スル物品ニシテ稅率ノ特掲ナキモノノ稅率カ定メラレアリ。例ヘハ第一類ノ末尾稅番第十一號ニ別號ニ掲ケサル動物ノ稅率ヲ「從價二割」ト定メ、第二類ノ末尾稅番第三〇號ニ別號ニ掲ケサル穀物、種子、醫藥用ノモノヲ除クノ稅率ヲ從價一割五分ト定ムルカ如シ。猶右ノ如キ各

類毎ノ特掲セラレサル品目ノ稅率ノ外ニ、稅表ノ最終稅番第六四七號ニ稅表全部ヲ通シテノ特掲セラレサル品目ノ稅率トシテ左ノ如ク之ヲ定ム。

六四七 別號ニ掲ケサル物品

一、未製品

從價一割

二、其ノ他

- 甲、 貴金屬、貴金屬ヲ鍍シタル金屬、寶石、半寶石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲ヲ用ヒタルモノ 同 五割
- 乙、 其ノ他 同 四割

註一、 右ノ方法ノ外貨物ノ性質、製造方法、又ハ用途ニ從ヒ最モ類似セル稅表記載ノ貨物ノ稅率ニ依ルヘントナスモノアリ。

註二、 我カ稅表ノ如キ無稅品特掲主義ヲ採用シテモ、米國ノ稅表ノ如ク、有稅品、無稅品ヲ同一ノ表ニ記載セス、有稅品表、無稅品表ニ大別シ、有稅品表ハ貨物ノ性質等ニ基キ更ニ二十四類ニ類別セラレ、無稅品表ハ「アルファベット」

從價稅ト
從量稅ト

順ニ記載セルカ如キモノアリ。

次ニ稅表中有稅品ノ課稅標準ニ就テハ、從價說 (Wertschille) 及從量稅 (Spezifische Zölle)ノ二種アリ。前者ハ物品ノ價格ヲ標準トシ之ニ對シ各々稅率ヲ定メタルモノニシテ、後者ハ物品ノ數量(重量、容積、箇數、長短)ヲ標準トシ之ニ對シ各々具體的稅額ヲ定メタルモノナリ。

從價稅ノ稅率ニハ最低從價五分ヨリ、一割、一割五分、二割、二割五分、三割、四割、五割等ノ種類アリ(例外、稅番六八煙草ノ一部ハ三十五割五分、所謂十割關稅ハ後述)。從量稅ノ單位ニハ、每一個、百個、千個、每頭(山羊ノ如キ)每一打、百打、每一斤、百斤、一萬斤、每噸、每一グロス、每一リットル、百リットル、每十ガロン、每百平方米、每立方米等アリ。

從價稅ノ基礎トナルヘキ物品ノ價格ノ性質ニ關シテハ定率法第二條ニ從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス」ト定メ居レリ。茲ニ到着價格トハ輸入港ニ到着シタルトキノ價格ヲ指スモノニシテ、仕入地ニ於ケル原價ニ保險料及運賃ヲ加ヘタル所謂 C I F 價

到着價格

格ト解シテ大過ナシ。「輸入ノ際ニ於ケル」ノ意義ハ法文上必スシモ明瞭ニ非サルモ、元來右第二條ハ大正十年ニ現在ノ如ク改正セラレタルモノニシテ、其以前ノ條文ハ「從價稅品ハ輸入港ニ到着シタルトキノ價格ニ依リテ課稅ス」トアリ、貨物カ輸入港ニ到着シテ後實際輸入セラル、ニ至ル間ニ生シタル價格ノ變動ニ際シ成ルヘク貨物カ現實ニ輸入セラル、時ノ價格ニ據ルヘキモノトセル趣旨ナルコトハ、當時ノ議會ニ於ケル大藏大臣ノ右條文改正提案ノ說明ニ依ルモ明ラカナリ。

從量稅ノ課稅單位ハ原則トシテ純量ニシテ、總量ニ依ルヘキトキハ特ニ稅表ニ明記シアリ。例ヘハ稅表第三一號「蔬菜、果實及核子、一、砂糖、糖蜜、糖水又ハ蜂蜜ヲ以テ貯藏シタルモノ」ノ稅額ハ每百斤容器共十二圓七十錢、同二、其ノ他、甲、蔬菜、甲ノ一、罐詰ノモノ、甲ノ二、罐詰ノモノ、甲ノ三、壺詰ノモノ」ノ稅額ハイツレモ每百斤容器共七圓九十錢、七圓六十錢、一圓九十五錢ト定ム。其他第一一七號「石鹼」ニ就テハ每百斤內裝、共ト謂ヒ、第一一九號「香水」ニ就テハ每百斤容器、及內裝、共ト謂フカ如シ。

純量ト總量

從量稅原則
主義ト從價
稅原則主義

一國稅表ニ於テ右ノ從量稅、從價稅ノイッレカヲ多ク採用スルカニ依リ、或ハ從量稅原則主義トナリ、或ハ從價稅原則主義トナル。我カ稅表ハ前者ニ據レリ。米國ヲ除ク世界主要貿易國亦然リ。蓋シ從量稅ハ從價稅ノ如ク關稅ト輸入品ノ價格トノ割合判明セス又價格低キ物品ニ對シ高キ物品ヨリモ重キ負擔ヲ課スル缺點ハアレト、他方從價稅ノ如キ課稅價格決定上ノ困難ナク且ツ稅率ノ細分ニ依リ或ル程度迄從價稅ノ長所ヲモ加味シ得ルカ故ナリ。(從價稅ト從量稅ノ長短ニ就テハ Gruntzel, a. a. O. S. 327--335 戶田海市博士商業經濟論五七三—五七五、堀江歸一博士關稅問題二二二—二二七參照)

稅力從價附
加稅

註、同一品目ノ稅率ニ對シ從量稅ト從價稅ヲ組合セタルモノアリ。從量稅ヲ主トシ之ニ從價稅ヲ加味スル場合多クレトモ反對ノ場合モアリ(米)。前者ニ就テハ佛蘭西ノ增加係數(Coefficient)ハ多ク人ノ知ルトコロナリ。我國ニテモ昭和七年六月十六日法律第四號輸入稅ノ從量稅率ニ關スル法律ハ從來ノ從量稅ニ從價三割五分ノ附加稅ヲ定メタリ。

奢侈關稅

有稅品ニ關シテハ、定率法別表以外ニ猶大正十三年七月發布ノ贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律ヲ知ルヲ要ス。此ノ法律ハ、概ネ奢侈品ニ屬スル稅番三一以下七十有餘ノ物品ニ對シ、當分ノ間輸入稅表記載ノ稅率ヲ適用セス、一律ニ從價十割ノ關稅ヲ課スト定ム。輸入稅表トハ別ニ特別法ヲ以テ關稅率ヲ定ムル形式ヲ採リタル例ハ大正十一年法律第二二號銅並真鍮及青銅ノ輸入稅ニ關スル件カ最初ニシテ、此ノ奢侈關稅ノ法律ハ二回目ナレト之レ關稅ノ一般的改正ノ行ハレサル爲ノ窮策ニシテ、稅表ノ形式トシテハ不可ナリ。

(四)

協定稅率、我國ト外國トノ現存協定稅率ハ日佛、日伊、各關稅協定ノ定ムルトコロナリ(日英協定ハ大正十四年廢棄)。他ニ昭和五年五月十六日ヨリ向三年間有效ナル日支關稅協定アリタリ。猶此等ノ協定稅率ハ最惠國條款ヲ有スル國々ニモ適用セラレ。

日支協定

日佛協定

日佛條約附屬稅表

明治四十五年二月
條約第十三號

附屬稅表甲號

日本國輸入稅

日本國關稅
定率表番號

品名

單位

佛蘭西國商品ニ適
用スル稅率ヲ算出
スヘキ日本國關定
稅率ノ百分率
上欄記載ノ百分
率ニ依テ算出ス
ル佛蘭西國商品
ニ適用スル稅率

五二ノ内 二、乙、イ、錫油漬

從價

五〇・〇

二 割

五三ノ内 天然バター

每百斤

九一・二

二七〇〇

六四ノ内 葡萄ノ天然醱酵ニ依リテノ
ミ釀造セル非沸騰性各種葡
萄酒

葡萄酒

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、
七九四七ノ比重ヲ有スル
モノヲ純酒精トシ原容量
百分中純酒精ノ容量十四寸超エサル

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、
七九四七ノ比重ヲ有スル
モノヲ純酒精トシ原容量
百分中純酒精ノ容量十四寸超エサル

モノ

グエルモツト

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、
七九四七ノ比重ヲ有スル
モノヲ純酒精トシ原容量
百分中純酒精ノ容量十四
ヲ超エ二十四ヲ超エサル
モノ

甲 罎入ノモノ

同

五〇・〇

二〇〇〇

乙 樽入ノモノ

同

三三・三

一〇〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ
百立方センチメートル
中ニ於ケル糠分ヲ葡萄
糖トシテ計算シタル重

量二十グラムヲ超エタルモノハ二十グラム以上一グラムヲ増ス毎ニ百リットルニ付二十五錢ヲ加フ

六五 シャンパン其ノ他ノスパー
クリングワイン

同 三七・五 三七・五〇

九八ノ内 阿列布油

二 其ノ他(蠟入又ハ樽入ノモノ)以外ノモノ

每百斤 六三・二 六〇〇

一一七 石鹼

一 薰香ヲ付シタルモノ
二 其ノ他

每百斤 六二・九 一八〇〇
每百斤 五〇・九 二九〇

一一八 薰香ヲ付シタル油、脂、蠟及其

每百斤

ノ製品

内容器及 四四・九 三五〇〇
内装共

一一九 香水

一 薰香ヲ付シタルグイ
ネガ

同 同 同
同 同 同
三三・三 三〇〇〇
五五・六 五〇〇〇

二 其ノ他

二二二 齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他
別號ニ掲ケサル製調薰香類

從價 五〇〇 二割五分

二八三ノ内毛織糸

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ

丙 其ノ他(梳毛絲ト紡

毛絲トヲ撚合セタルモノ)番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタル

ルモノ及輪絲以外 ノモノ)		
丙ノ一 梳毛ノモノ		
イ メートル式番 手三十二番ヲ 超エサルモノ	每百斤	一〇〇〇
ロ 其ノ他		一三二〇
三〇一ノ内毛織物、毛綿交織物及毛又ハ 毛綿ト絹トノ交織物	同	七五四
二 其ノ他(天鷲絨、ブラツ シユ其ノ他ノバイル 織物(バイルヲ切リタ ルト否トヲ別タス)以 外ノモノ)		一三二〇

甲 毛製ノモノ		
イ 一平方メートル ニ付百グラムヲ 超エサルモノ	同	七五〇
五三三 雙眼鏡及隻眼鏡		四三・一〇
一 プリズムヲ用ヒタル モノ		
二 其ノ他	每斤	六六・七
五六三 自動車	同	一〇〇〇
五六四 自動車部分品(原動力機ヲ除 ク)	從價	八三・三
六〇〇ノ内メリヤス機械		七〇〇
一 一箇ノ重量五百キロ グラムヲ超エサルモ	同	三割五分
		八三・三
		二割五分

每百斤 五〇〇 一二〇〇

附屬稅表乙號

佛蘭西國輸入稅

佛蘭西國關稅
定率表番號

品名

單位

(稅最低稅率)

四五九ノ内

羽二重其ノ他之ニ類似ノ織物

精練シタルモノ但シ漂白セサル

モノ、染メサルモノ、塗ラサルモノ

又ハ捺染セサルモノ

百基 六〇〇

註 漂白トハ單純ナル精練以外ノ

方法ニ依ル漂白ヲ謂フ

二重製手巾ニ對スル稅率ハ稅番第

四六〇號ノ最低稅率トス

日本漆ヲ塗リタル木製品ニ對スル

稅率ハ他ノ材料ト結合セル爲高稅

ヲ課セラル、場合ヲ除クノ外其ノ
種類ニ依リ稅番第五九一號、第五九
二號ノ乙、第五九三號又ハ第六四一
號ノ乙ノ最低稅率トス

日伊協定

日伊條約附屬稅表

大正二年六月
條約第六號

附屬稅表甲號

日本國輸入稅

日本國關稅
定率表番號

品名

單位

稅率

三一ノ内

二、甲、一 罐詰ノ蔬菜トマトーヲ

每百斤容器共

六〇〇

含ム)

二、乙、一ノ内 罐詰ノ果實

同

五五〇

二、乙、四イノ内 シトロン

每百斤

二五〇

四八

マカロニー、ヴァーミセリー其他

各種ノ麵類

同

六〇〇

六四ノ内

ヴエルモット及マルサラ

但シ攝氏十五度ニ於テ〇・七九
四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純
酒精トシ原容量百分中純酒精
ノ容量十四ヲ超エ二十四ヲ超
エサルモノ

甲 罇入ノモノ

乙 樽入ノモノ

但シ攝氏十五度ニ於テ
百立方センチメートル
中ニ於ケル糖分ヲ葡萄
糖トシテ重量二十グラ
ムヲ超エタルモノハ二
十グラム以上一グラム

每百リットル

二〇〇〇

同 一〇〇〇

ヲ増ス毎ニ百リットル

ニ付二十五錢ヲ加フ

二、甲、イノ内 葡萄ノ天然醱酵ニ
依リテノミ醸造セル非沸騰性
各種葡萄酒

但シ攝氏十五度ニ於テ〇・七九
四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純
酒精トシ原容量百分中純酒精
ノ容量十四ヲ超エサルモノ
樽入ノモノ

攝氏十五度ニ於テ百立方セ
ンチメートル中ニ於ケル糖
分ヲ葡萄糖トシテ計算シタ
ル重量一グラムヲ超エサル

九五ノ内 一ノ内 柑橘屬果實ヨリ製シタル

同

五〇〇

揮發油

(オレンヂ、シトロン、バーガモツト、
マンダリン等ノエツセンズ)

九八ノ内

每百斤

無稅

二九八ノ内

一 罐入又ハ樽入ノ阿列布油
九、丙、三ノ内 傘用綿布及繻子(紋
織ニアラサルモノニシテ染メタ
ルモノ)

一七〇

百平方メートルニ付十キログラ

ムヲ超エ二十キログラムヲ超エ
サルモノニシテ五ミリメートル
平方内ニ於ケル經緯ノ絲數

二十八ヨリ三十五迄ノモノ

同

一八三〇

三五四ノ内

三十六ヨリ四十三迄ノモノ
二、乙、一 フェルト製帽子

同 每打

二二〇

五六〇

二、乙、二、イ フェルト製帽體(形
ツクリタルモノ)

同

五六〇

三五七ノ内

二、丁ノ内 アイボリーナツト
製ノ紐釦

每百斤内裝共

七〇〇

二、戊ノ内 骨製又ハ角製ノ紐
釦

同

七〇〇

四六九ノ内

水銀

無稅

附屬稅表乙號

伊太利國輸入稅

伊太利國關稅
定率表番號

品名

單位

稅率

一五七ノ内

芭蕉科植物纖維製ノ眞田

每百基

八〇〇

二一三ノ内

羽二重其ノ他之ニ類似ノ織物

第六章 輸入ノ許否ト關稅ノ賦課

一三三

生又ハ單ニ精練シタルモノ
ニシテ一平方メートルノ重
量四十グラムヲ超エサルモ
ノ但シ漂白セサルモノ、染メ
サルモノ又ハ捺染セサルモ
ノ

ロ、一ノ内 平織及綾織
ノモノ

每基

四・五〇

註 漂白トハ單純ナル精
練以外ノ方法ニ依ル
漂白ヲ謂フ

二二八ノ内
二三九ノ内

羽二重製ノ手巾、肩掛襟卷其ノ
他ノ加縫品
日本漆ヲ塗リタル家具及其ノ

羽二重ノ稅率ニ
其ノ二割ヲ加フ

部分品仕上ヲ爲シタルト否ト
ヲ別タス)

イ 填裝セサルモノ

三 堅木製ノモノ

二四一ノ内

日本漆ヲ塗リタル木製細貨

同

四〇〇〇
四〇〇〇

二四五ノ内

竹製品(紐又ハ普通金屬ヨリ成ル
非粧飾的常用附屬品アルモノ
ヲ含ム)

ロ 精ナルモノ

同

二〇〇〇

註 花筵ハ二四五番ロノ内ニ

テ協定率二十リラノ適用

ヲ受ク

二四六ノ内

眞田

イノ内 麥稈眞田(六條裸麥

ノ 同 五〇〇

ロノ内 經木眞田及經木麥
稗混製眞田

一、製帽用ノモノ 同 一〇〇〇

二五六ノ内 日本漆ヲ塗リクル紙製品及板

紙製品 同 五〇〇〇

四五五ノ内 竹製又ハ竹骨ヲ用ヒタル紙製

若ハ布帛製ノ扇子及團扇

イ 尋常ノモノ 同 六〇〇〇

ロ 精ナルモノ 同 一〇〇〇〇

協定稅率ノ便益ニ均霑スル國名表

協定稅率ノ
便益ニ均霑
スル國名

亞爾然丁共和國

埃太利

白耳義國(コンゴローヲ含ム)

ボリヅイア共和國

伯刺西爾合衆國

智利共和國

哥倫比亞共和國

「チエツコ、スローヅアキア」

丁抹國(殖民地共但シアイスランド及丁抹國殖民地グリーンランドヲ除ク)

「エクアドル」

芬蘭

佛蘭西共和國(アルゼリー、キアヌ、佛領西部亞弗利加、佛領赤道亞弗利加、マル

チニツク、サンビエール、エミクロン、ヌーヴエルカレドニー、佛領印度、ソマリ

沿岸、レウニオン、マダガスカル、グアドループ及摩洛哥國佛領地帶ヲ含ム)

希臘國

伊太利國

墨西哥合衆國

和蘭國(殖民地共)

諾威國

「バラゲワイ」

秘露共和國

波蘭(ダンチツヒ)自由市ヲ含ム)

「セルブ、クロアイト、スロヴエイタ」

暹羅國

西班牙國(バレアリツク島及カネリー島共)

瑞典國

瑞西國

土耳其

「ソヴィエツト」聯邦

大不列顛、愛蘭聯合王國(バハマス、ベルムダ、バルバドス、英領ギアナ、英領ホン
ヂュラス、英領印度、加奈陀、錫蘭、サイブラス、東阿弗利加保護領、フオー克蘭

ド諸島、馬來聯邦(ベラク、セラシゴール、ネグリセムピラン、バハン)、ガムビア
(保護領ヲ含ム)、ゴールドコースト(アシヤンチ及北部屬地ヲ含ム)、グレナダ、
香港(九龍ヲ含ム)、ジャマイカ(タークスカ及イヨス諸島及カイマン諸島ヲ
含ム)、リワード諸島(アンチグア、モントセラツト、セントクリストファー
ネヴィス、ヴァジン諸島、ドミニカ)、モールタ、モーリシアス、ニユーフオンド
ランド、北部ナイジリア、ニアサランド保護領、セントヘレナ、セントリュシ
ア、セントヴィンセント、セーシエル、シエラリオニ(保護領ヲ含ム)、ソムリラ
ンド保護領、南部ナイジリア(保護領ヲ含ム)、海峽殖民地(ラグアンヲ含ム)、ツ
リニダツト及トバゴ及ウガンダ(保護領ヲ含ム)、北米合衆國(布哇、アラスカ、
グアム、米領サモア、比律賓諸島、ポートルリコ)ヲ含ム)

(五) 差別關稅。前項説明セシトコロノ奢侈關稅ノ外ニ輸入稅表記載ノ原
則的國定稅率ニ對シ、例外的國定稅率ヲ爲スモノアリ。茲ニ差別關稅
(Differential Duty)ト稱セラル、モノ之ナリ。之ニ原則的關稅率ヨリ低
キ場合ト高キ場合トアリ。

(一) 特惠關稅 (Preferential duties)

特惠關稅トハ一國カ特定地域トノ貿易ヲ助長スル目的ヲ以テ該特定地域ヨリノ輸入貨物ニ對シ普通稅率以下ノ低キ稅率ヲ適用スルコトナリ。

我カ關稅定率法定ムルトコロノ特惠關稅ノ規定ハ同法第三條ニ條約ニ依ル特別協定ノ便益ヲ受ケサル地域ノ生産品ニ對シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ該協定ノ限度ヲ超エサル便益ヲ與フルコトヲ得トアルカ之ナリ。此ノ規定ニ基キ現在行ハレ居ル我カ特惠關稅ハ次ノ如シ。

(イ) 關東州ヨリノ輸入貨物ニ對スル特惠關稅。

(A) 我カ租借地タル關東州ヨリノ輸入貨物ニ對シテハ協定稅率適用セラル。但シ關稅定率法ニ定ムル稅率カ協定稅率ヨリ低キトキハ此ノ限ニ在ラス(明治三十九年九月二十六日勅令第二百六十二號關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅

關東州ニ對スル
特惠關稅

率ニ關スル件本令ハ同年十月一日ヨリ施行、猶右協定稅率ニ依ルヘキ物品ニハ關稅法施行規則第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス)

(B) 其後關東州トノ貿易關係ヲ一層密接ナラシムル趣旨ヲ以テ右ノ外ニ新タニ大正十四年六月十七日法律第五十一號ヲ以テ關東州ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅免除ニ關スル件) 發布セララル。右ニ依レハ關稅定率法輸入稅表ニ掲クル物品ニシテ關東州ノ生産ニ係リ本法別表甲號ニ掲クルモノ、輸入稅ハ之ヲ免除シ本法別表乙號ニ掲クルモノ、輸入稅ハ關稅定率法別表輸入稅表ニ依ラス本法別表丙號ニ依ルトアリ。右別表左ノ如シ

甲號	稅番	品名
	三一ノ内	生果

七二ノ内	緬羊革及山羊革(塗リタルモノヲ除ク)
一四一ノ二	甘草越幾斯
一四五	阿膠
一四六	ゼラチン
一五一	プロロム
一六五ノ内	曹達灰
一六九ノ内	硫酸曹達(精製ノモノ)
二二九ノ内	硫酸マグネシウム
二三〇ノ内	コールタールヲ主要原料トシタル消毒劑
二七二	綿織絲
二七八ノ内	苧麻絲及苧麻線
二八〇	黄麻織絲
二八一ノ内	黄麻絲及黄麻線

二八三	毛織絲
二八四	毛綿織絲
二八九ノ内	野蠶絹絲
二九六ノ内	苧麻線、苧麻繩、黄麻線及黄麻繩
二九九ノ内	黄麻布(關東州ノ生産ニ係ル黄麻絲ヲ原料トシタルモノ)
三〇一ノ内	天鷲絨、ブラツシユ其ノ他ノバイル織物以外ノ毛織物及毛綿交織物(關東州ノ生産ニ係ル毛織絲又ハ毛綿織絲ヲ原料トシタルモノ)
三二六ノ内	毛製又ハ毛綿製ノブランケット(關東州ノ生産ニ係ル毛織絲又ハ毛綿織絲ヲ原料トシタルモノ)
三三九ノ内	ガンニ一囊(關東州ノ生産ニ係ルガン

三四三

ニ一布ヲ原料トシタルモノニシテ長九十五センチメートル、幅六十センチメートルヲ超エタルモノ）別號ニ掲ケサル布帛製品

二ノ内 内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ノ生産ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ

四三二ノ内

ポートランドセメント

四三五

別號ニ掲ケサル礦物及礦物製品

二、其ノ他

乙ノ内 マグネサイト又ハドロマイトヲ主要原料トシタル建築材料（粉狀ノモノ）

四三六

煉瓦（セメント製ノモノヲ除ク）

四三七

瓦（粘土製ノモノ）

四三八

耐火製粘土製品（別號ニ掲ケサルモノ）

四四一

硝子塊

四四二

硝子粉

四四四

硝子板

四六二ノ二

特殊鋼

一ノ内全重量百分中クロム、タングステン又ハモリブデンノ重量〇・五以上ヲ含有スルモノ（關東州ニ於テ製鍊シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル條竿及板）

四七六ノ内

ニツケル及クロムヲ含ム電氣抵抗材料（關東州ニ於テ製鍊シタル塊及錠並之ヲ原料トシタル紐、帶及

乙號	品名	單位	稅率
五七〇ノ内	線 ゲーシグラス		
六一七ノ内	骨炭(徑一・二五ミリメートルノ圓眼ヲ有スル篩ヲ通過スルモノヲ除ク)		
六三五ノ内	安全燈ホヤ		

稅番	品名	單位	稅率
五二ノ内	牛肉(生鮮ナルモノ)	每百斤	一・〇〇
一二〇ノ内	大豆硬化油(關東州ノ生産ニ係ル大豆油ヲ原料トシタルモノ)	每百斤	一・二〇
三四三	別號ニ掲ケサル布帛製品		
	二ノ内 内地、朝鮮		

臺灣、又ハ樺太ノ生産ニ依ル亞麻布(他ノ植物纖維ヲ交ヘタルモノヲ含ム)及關東州ノ生産ニ係ル油ヲ原料トシタルモノ

每百斤 二・八五

備考 從量稅率ノ單位ハ圓トス。

此ノ法律ハ公布ノ日ヨリ施行セラル。昭和二年、同四年改正アリ現在ニ及フ。猶右法律ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告書ニ當該物品ノ產出地又ハ製造地ヲ管轄スル民政署長又ハ民政支署長ノ證明シタル製產原地證明書ヲ添付(第一條)スルヲ要ス。(大正十四年六月十七日勅令第二百三十二號、大正十四年法律第五十一號ニ依ル生産品ノ製產原地證明ニ關

支那ニ對スル
特惠關稅

スル件參照)

(ロ) 支那ヨリノ輸入貨物ニ對スル特惠關稅。

支那ノ生産ニ係ル銑鐵、水銀、毛織物、毛綿交織物及綿織物ハ協定稅率ニ依ル、但シ關稅定率法ニ定ムル稅率カ協定稅率ヨリ低キトキハ此ノ限ニ在ラス。(明治三十九年十一月二十九日勅令第三〇四號支那國ノ生産ニ係ル物品ノ輸入稅率ニ關スル件、同年十二月一日ヨリ施行、定率法第三條ニ基クコト、其物品ニ關シ關稅法施行規則第一條及第二條ノ準用ハ前ニ同シ)

土耳其ニ對スル
特惠關稅

(ハ) 土耳其ヨリノ輸入貨物ニ對スル特惠關稅。

土耳其ノ生産ニ係ル物品ハ協定稅率ニ依ルコト、但シ關稅定率法ニ定ムル稅率ノ方カ低キトキハ此ノ限ニ在ラス(大正十三年八月十五日勅令第九十三號、公布ノ日ヨリ施行、關稅法施行規則第一條及第二條ノ準用前ニ同シ)。

報復關稅

(11) 報復關稅 (Retaliatory duties)

(イ) 定率法第四條ノ規定即チ「本邦ノ船舶、生産品若ハ輸出品又ハ本邦ヲ通過シタル物品ニ對シ他國ノ船舶、生産品若ハ輸出品又ハ他國ヲ通過シタル物品ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生産品若ハ輸出品又ハ其ノ國ヲ通過シタル物品ニ對シテハ、勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ別表ニ定メタル關稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得」之ナリ。

(ロ) 「外國ヨリ輸入スル鹹魚、燻製魚及魚粕ニ關スル件」(明治三十三年八月二十七日法律第八十六號)

「外國ヨリ輸入スル鹹魚及燻製魚ニ對シ關稅定率法ニ定メタル外仍原價百分ノ五十以下ノ輸入稅ヲ增課シ魚粕ニ對シ、原價百分ノ五十以下ノ輸入稅ヲ賦課スルコトヲ得、但シ此ノ稅率及其ノ毎年ノ施行期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」

此ノ法律ハ明治三十二年十一月黑龍江江道總督カ從來ノ

薩哈噠島規則ニ反シタル海產假規定ヲ以テ我カ漁業者ノ利益ヲ侵サントセシ故之ニ對シ報復セン爲發布セラレタルモノナルガ右法律ノ發布ニ依リ露國側ノ態度一變シタル爲實施セスシテ終リタリ。

相殺關稅

(三) 相殺關稅 (Countervailing duties)

定率法第五條ノ規定即チ「外國ニ於テ輸出獎勵金ヲ受クル物品ニ對シテハ別表ニ定メタル關稅ノ外勅令ヲ以テ獎勵金ト同額ノ關稅ヲ課スルコトヲ得」之ナリ

投資防止關稅

(四) 投資防止關稅 (Anti-dumping duties)

定率法第五條ノ二ノ規定即チ「不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ因リ本邦ニ於ケル重要産業カ危害ヲ被ルノ虞アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不當廉賣審査委員會ノ審査ヲ經テ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ別表ニ定ムル關稅ノ外其ノ正當價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ

得。前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル物品ニシテ既ニ輸入セラレ不當廉賣者又ハ其ノ代理人ノ所有又ハ所持ニ係ルモノニ對シテハ前項ノ規定ニ準シ不當廉賣者又ハ其ノ代理人ヨリ附加關稅ヲ追徵スルコトヲ得。前項ノ規定ニ依リ追徵スル附加關稅ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス。

(二)以下ハ稅率ノ高クナル場合ナリ。此等ハ必要ニ應シ何時ニテモ勅令ヲ發布シテ之ヲ設定シ得ヘク又假令之ヲ實施セストモ威嚇的ノ效果ハ存スヘシ

米及粳ノ關稅

註一、米及粳ハ凶作ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ每百

斤四十錢ヲ限度トシ關稅ヲ低減スルヲ得ルモノトス(定六)猶米穀法第二條ハ米穀ノ數量又ハ市價ヲ調節スル爲勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除シ得ルモノトシ且ツ同第三條ハ米穀ノ輸入及ハ輸出ハ政府ノ許可ヲ要ストセリ。

註二、不當廉賣審査委員會ハ不當廉賣ノ審査ニ任スヘキ機關ニシテ會長ハ商工大臣、委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ任命スヘキ關係各官廳高等官及學識經驗アル者二十人以内トナシ、別ニ必要アルトキハ臨時委員ヲ任命スルモノトス。委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ、同大臣ハ委員會ノ審査ニ付スヘキ事項ニ付テハ豫メ大藏大臣ニ協議スルコトヲ要スルモ委員會ノ決議ヲ不當ナリト認ムルトキハ再審査ヲ命スルヲ得ヘク委員會ノ決議ハ意見ヲ附シテ之ヲ大藏大臣ニ移牒スルモノトス。大藏大臣ハ右ノ移牒ニ基キ必要アリト認ムルトキハ關稅定率法第五條ノ二ノ規定ニ依リ附加關稅ヲ賦課シ得ルモノトス(定五ノ二及大正九年勅令第五四九號關稅定率法第五條ノ二施行ニ關スル件参照)

關稅委員會

註三、

茲ニ關稅調查委員會ニ就キ述フヘシ、同委員會ハ大正十五年ノ關稅ノ一般的改正直後設置セラレタル常設的關稅政策調

査機關ニシテ大藏大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ關稅率ニ關スル事項ヲ調査審議シ又ハ同一ノ事項ニ付大藏大臣ニ建議スルコトヲ得ルモノトス。組織ハ會長一人、委員三十人以内トシ、會長ハ大藏大臣、委員ハ大藏部内高等官六人、商工部内高等官四人、農林部内高等官三人、外務部内高等官三人、内務部内高等官一人及學識經驗アル者十二名以内ニシテ(他ニ臨時委員ヲ命スルコトヲ得)大藏大臣ノ奉請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ、任期ハ四年トス。右ニ類似ノ外國ノ立法例殊ニ米國ノ關稅委員會及 Scientific tariff ニ就テハ小林博士前掲第七一頁以下、同一〇一頁以下参照。所謂伸縮關稅(Flexible Tariff) 即チ關稅立法權ノ行政官廳ヘノ委任ノ問題ニ就テハ上田博士商業政策第五〇頁以下、久保治氏「米國關稅伸縮條項ト其ノ運用狀況ニ就テ」自由通商第四卷第三號、瀧谷善一教授「關稅引上權委任問題」自由通商第三卷第四號參照。今議會ヲ通

伸縮關稅

關稅獨裁權

關稅法大綱

一五四

過シタル貿易調節及通商擁護ニ關スル法律参照

第七章 關稅ノ免除及拂戻

免稅品

普通免稅

(一) 關稅ノ免除

關稅ノ免除トハ本來有稅タルヘキ輸入貨物カ法律ノ要求スル一定ノ條件ヲ具備スルトキ特ニ關稅ヲ免除セラル、コトヲ謂ヒ、斯ル貨物ヲ免稅品ト稱ス。我カ現行ノ免稅ニハ種々ノ區別アリ、從テ又之ヲ定ムル法律乃至條約ヲ異ニスト雖茲ニハ專ラ關稅定率法第七條以下ニ規定スルモノヲ、免稅條件ヲ標準トシテ、分類説明スヘシ。

(一) 一定ノ用途ヲ條件トシタルモノ(普通免稅)

此種ノ免稅ハ貨物ノ性質如何ニ拘ラス之カ用途ヲ限定シ其ノ範圍内ニ於テ免稅スルモノナリ。各國概ネ立法例ヲ同ウス。

(1) 御料品(關稅定率法第七條第一號)。

皇室ニ於テ用ヒラル、物品ノ意ナリ。宮内省ノ決定ニ依ラサルヘカラス。

(2) 本邦ニ來遊スル外國ノ元首及其ノ一族並ニ其ノ從者ニ屬

スル物品(同第二號)。

(3) 陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物(同第三號)。陸海軍當局ノ申告ニ依ラサルヘカラス。

(4) 政府ノ輸入ニ係ル燃料用礦油(同第四號)。「ガソリン」其他ノ輕油ヲ含マシメサル法意ナリ。

(5) 直接燃料ニ供スル礦油ニシテ攝氏十五度ニ於ケル比重〇・九〇四ヲ超エタルモノ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ輸入スルモノニ限ル(同第四ノ二號)。

命令(大正九年十一月二十五日勅令第五五〇號)關稅定率法第七條第四號ノ二ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件(同年同月二十六日農商務省令第四十一號)關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ礦油ニ關スル件(同年朝鮮總督府令第一九五號及同十一年臺灣總督府令第二十二號)ノ規

定ニ依レハ本項ノ適用ヲ受クル爲ニハ(一)鑛業工業運輸業又ハ漁業ノ爲メニ使用スル發動機用又ハ汽罐用(二)製鍊用(三)窯業用(四)金屬加熱用ノイツレカノ用途ヲ有シ(一)輸入セントスル礦油ノ數量及豫定價格(二)輸入セントスル礦油ノ用途貯藏場使用場所及之ヲ使用スヘキ設備(三)仕出港輸入港及輸入豫定時期ヲ記載シタル許可申請書ヲ商工大臣(朝鮮臺灣ハ總督)ニ提出スルヲ要ス。右ノ輸入申告書ニハ前述ノ許可證ヲ添附スヘク且ツ申告ハ礦油使用者ノ名ヲ以テスルヲ要ス。右礦油ハ輸入後右ノ用途ニ供セサルトキハ輸入稅ヲ追徵セラル、モノトス。

(6) 軍艦(同第五號)。部分品並ニ解體セラレタルモノモ軍艦籍ニ在ルモノハ本項ニ屬ス。

(7) 本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使、公使其他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品及在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬

スル公用品但シ本邦ヨリ派遣シタル大使、公使其他之ニ準スヘキ使節ニ屬スル自用品又ハ本邦大使館若クハ公使館ニ屬スル公用品ニ對シ免税ニ制限ヲ附スル國ニ付テハ相互條件ニ依ル(同第六號)。羅馬法王廳使節ハ右ニ準スル使節ノ一タリ。

本項ハ大正十五年改正セラレタルモノニシテ改正前ノ條文ハ本邦ニ派遣セラレタル外國ノ大使又ハ公使ニ屬スル自用品並ニ在本邦外國大使館又ハ公使館ニ屬スル公用品トアリタリ。

(8) 本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦大使館又ハ公使館ノ館員ニ屬スル自用品及本邦領事館ニ屬スル公用品ニ對シ關稅ヲ免除スル國ノ在本邦領事館ニ屬スル公用品(同第七號)。

(9) 本邦在住者ニ贈與スル勳章、賞牌及記章(同第八號)。

(10) 記錄文書及其他ノ書類(同第九號)。

(11) 官立公立ノ學校、博物館、物品陳列所等ノ營造物及命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校ニ陳列スル標本又ハ參考品ニシテ大藏大臣ノ認許シタルモノ(同第十號)。

本項モ又改正セラレタルモノニシテ舊法ハ前段物品陳列所等ノ營造物カ物品陳列所其他ノ營造物トアリ後段命令ヲ以テ指定シタル私立ノ學校カ私立ノ專門學校トアリタリ。前者ハ字句ノ修正ニ過キサルモ後者ハ範圍ヲ擴大シタルモノナリ。即チ大正十五年三月二十九日大藏省令第十四號、關稅定率法第七條第十號ニ依ルコトヲ得ヘキ私立學校ニ依レハ右學校ノ範圍ハ(一)幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校、專門學校、高等學校及大學(二)前號ニ掲ケサル學校ニシテ別ニ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノニ及ヘリ。

- (12) 慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈セラレタル給與品及孤兒院、養老院、施療病院等ノ慈善團體ニ寄贈セラレタル物品ニシテ直接慈善ノ用ニ供スルモノ(同第十一號)。
- 舊法ニ慈善又ハ救恤ノ爲ニ寄贈シタル物品トアリシヲ改正シタルナリ。本號ハ贈與ニ因ル輸入品モ原則トシテ課税セラルルコトヲ前提トシタル規定ナリ。
- (13) 社寺、教會又ハ禮拜堂ニ寄贈セラレタル式典用具及禮拜用具(同十一ノ二號)。
- 本號ハ大正十五年改正ノ際新ニ追加セラレタルモノナリ。
- (14) 政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品(同十二號)。
- (15) 商品ノ見本、但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル(同十三號)。
- (16) 旅客ノ用品及旅客ノ職業上必要ナル器具、但シ旅客ノ身分ニ相當スルモノニシテ稅關カ適當ト認メタルモノニ限ル(同十四號)。

- (17) 在外軍隊、軍艦又ハ公館ヨリ送還シタル物品(同十五號)。
- (18) 個人ニ屬スル引越荷物、但シ既ニ使用セラレタルモノニ限ル(同十六號)。
- (19) 外國航行ノ艦船ニ船用ノ爲メ引渡ス物品、但シ第十條(後述)ニ掲クル物品ヲ除ク(同二十號)。
- (20) 國道府縣其ノ他ノ公共團體、政府ノ指定スル産業ニ關スル法人又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ輸入スル種用動物、獸疫免疫血清及獸疫豫防接種液(同二十三號)。
- 本項政府ノ許可ヲ受ケントスル者ハ豫メ(一)輸入セムトスル種用動物ノ種類、性、年齡及頭數又ハ輸入セムトスル獸疫免疫血清及獸疫豫防接種ノ種類及數量(二)輸入ヲ必要トスル事由(三)蕃殖計畫(四)種用動物ノ飼育設備及(五)購置地輸入豫定港及輸入豫定期間ヲ記載シタル申請書ヲ馬ニ付テハ陸軍大臣ニ其他ノ物品ニ付テハ農林大臣ニ提出シ、許可ヲ

受ケタルトキハ其許可書ヲ輸入申告書ニ添附シテ税關ニ提出スルモノトス。
猶免税ノ許可ヲ與ヘラルヘキ種用動物ノ種類ハ牛、馬、綿羊、山羊、豚、兔、犬、雞、鶩、鴛、七面鳥、鴿、雉、蜜蜂、狐、黑貂、ミンクナリ。又前述ノ免税ヲ受クルコトヲ得ヘキ産業ニ關スル法人ハ畜産組合及ヒ同聯合會ナリ(大正九年十一月九日大藏省告示第百八十七號、關稅定率法第七條第二十三號ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ法人等ニ關スル件)。

再輸入免税

(二) 輸出品ノ再輸入ヲ條件トシタルモノ(再輸入免税)

(1) 輸出シタル物品ニシテ五年以内ニ輸入セラレ輸出ノ時ノ性質及ヒ形狀ヲ變セサルモノ但シ酒精、酒類、砂糖及ヒ第八條又ハ第九條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク(關稅定率法第七條第十七號)。
本項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸

出免税狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書ヲ提出スルヲ要シ若シ輸入貨物カ内國産ニシテ輸出免税狀又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書ヲ提出シ得スト税關官吏ニ於テ認メタル場合ニハ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノトス。
(2) 命令ヲ以テ指定シタル輸出貨物ノ容器ニシテ再輸入スルモノ但シ定率法第八條ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ除ク(同第十八號)。

命令(大正十五年九月八日大藏省令第三十四號、關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入税ヲ免除セラルヘキ輸出貨物ノ容器指定)ノ規定ニ依レハ本項ノ適用ヲ受クル容器ハ(一)礦水、清涼飲料水、清酒、麥酒又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シタル罎、但シ麥酒罎ニ付テハ大正十年勅令第二三八號ニ依リ輸入税ノ拂戻ヲ受ケタルモノヲ除ク(二)清酒、麥酒又ハ醬油ノ容器トシテ使用シタル樽(三)硫酸、鹽酸、硝酸又ハ醋酸ノ容器トシテ使用シ

タル壺又ハ罐(四)壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用シタル鐵製シリ
ンター(五)穀粉又ハセメントノ容器トシテ使用シタル綿製袋
ニシテ、右ノ外朝鮮ニツキ味噌容器及木製樽、又臺灣ニツキ(一)
酒精容器木製樽、ドラム(二)糠密容器木製樽及鐵製、ドラムヲ認
メタリ。

(3) 難破シタル本邦船舶ノ解體材及艤裝品(同第二十一號)。

(4) 本邦ヨリ出港シタル船舶ニ搭載シタル輸出貨物ニシテ該船
舶難破シタル爲メ積戻リタルモノ但シ定率法第八條及第九
條ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ受ケタル物品ヲ除ク(同第
二十二號)。但書ハ大正十五年改正ノ際追加セラレタルモノ
ナリ。(3)及(4)ハ(1)及(2)トハ尠シク立法理由ヲ異ニスレト形
式的ニ之ヲ同一ニ取扱ヒタリ。

(三) 再輸出ノ目的ヲ以テ輸入スルコトヲ條件トシタルモノ(再輸出
免税)

再輸出免税

定率法第八條ニ左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ一年以内ニ再ヒ
輸出スルモノニハ輸入税ヲ免ス但シ輸入ノ際税金ニ相當スル擔
保ヲ提供セシムル事ヲ得トアルカ即チ之ニシテ其ノ左ノ物品ト
ハ次ノ如キモノナリ。

(1) 加工ノ爲輸入スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ
(第八條第一號)。

外國ヨリ加工ノ爲我國ニ輸入セラレ加工後再ヒ輸出セラ
ルル貨物ニシテ輸出後當該外國(仕出國)ニ輸入セラル、カ
或ハ他ノ外國ニ輸入セラル、カハ問ハス、只輸入セラル、
モノト輸出セラル、モノトハ同一物タルコトヲ要ス。命
令ノ規定(明治三十九年九月二十六日勅令第二百六十一號)
關稅定率法第八條第一號ニ依リ加工ノ爲輸入スル物品ニ
關スル件ニ依レハ加工物品ノ範圍ハ(一)彫刻、七寶、象眼、瑠璃、
塗漆、繪畫、模様、現像、彩色若ハ印刷ヲ施シ又ハ金屬ヲ鍍スル

爲輸入スル製品(二)繪畫又ハ模様焼附ノ爲輸入スル磁器及陶器(三)精練漂白、色染、捺染、友禪染又ハ撚ヲ施ス爲輸入スル絲縷、布帛及布帛製品(四)絲拔、絨、刺繡又ハ縁縫ヲ爲ス爲輸入スル布帛及布帛製品(五)鞣、色染、裏付又ハ義眼等ヲ施ス爲メ輸入スル毛皮及獸皮ナリ。前記物品ヲ輸入セムトスル者ハ輸入申告書ニ輸入ノ目的、加工ノ種類及加工者ノ氏名ヲ附記スヘク之ヲ再輸出スルトキハ輸出申告書ニ加工者ノ作製セル加工證明書ヲ添付スヘク且ツ其ノ物品ノ輸入手續ヲ爲シタル稅關ヲ經由スヘキモノトス但シ輸入手續ヲ爲シタル稅關ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス。

(2) 輸入貨物ノ容器ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ(同第二號)。

命令ノ規定明治四十四年六月九日大藏省令第二十七號(關稅定率法第八條第二號ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ輸

輸入貨物ノ容器指定(大正九年八月朝鮮總督府令第一二六號)ニ依レハ指定セラレタル容器ハ壓搾瓦斯ヲ填充セル鐵製容器ノミナリ。

(3) 輸出貨物ノ容器ニ使用スル物品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノ(同第二號ノ二)

命令ノ規定大正十五年十月七日大藏省令第四十號(關稅定率法第八條第二號ノ二ニ依リ輸入稅ヲ免除セラルヘキ物品指定)ニ依レハ指定物品ハ(一)壓搾瓦斯ノ容器トシテ使用スル鐵製、シリンドー(二)油類、染料、酸類又ハ糖蜜ノ容器トシテ使用スル鐵製、ドラム(三)砂糖、硬化油、小麥粉又ハセメントノ容器トシテ使用スル、ガンニー(四)コールタール、麥酒、味噌、醬油又ハ油類ノ容器トシテ使用スル木製樽(五)麥酒ノ容器トシテ使用スル、アルミニウム製罐(六)飲食物罐詰用ノ葉鐵製罐ナリ。

- (4) 修繕ノ爲輸入スル物品(同第三號)
- (5) 學術研究ノ爲輸入スル物品(同第四號)
- (6) 試驗品トシテ輸入スルモノ(同第五號)
- (7) 注文取集ノ爲メ輸入スル見本品(同第六號)
- (8) 製作見本品トシテ輸入スルモノ(同第六號ノ二)
- (9) 本邦ニ渡來スル巡回興行者カ輸入スル興行用物品(同第七號)
- (10) 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等へ出品スル爲輸入スル物品(同第八號)

原料品免稅

(四) 輸出品其他法律ニ指定スル物品ノ製造ニ使用スル輸入原料タルコトヲ條件トスルモノ(原料品免稅)

輸出免稅

(1) 輸出品ノ製造ニ使用スルモノ(輸出免稅)
關稅定率法第九條第一項ニ輸入原料品ニシテ命令ヲ以テ指定シタル輸出品ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得トアルカ之ナリ。茲ニ免除又ハ拂戻ノ前者ハ免稅ニシテ、後者ハ戻稅ナリ。茲ニハ前者ノミヲ述へ後者ハ戻稅ノ項ニ於テ述フヘシ。免除ニハ前記ノ如ク輸入稅ノ全部タル事アリ又一部タルコトアリ。左ニ命令(大正十年五月二十八日勅令第二百三十八號)關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件最近ノ改正ハ昭和七年六月ノ規定ニ依リ指定セラレタル製造品名、輸入原料品名、免除率ヲ掲クヘシ。

製造品

輸入原料品

免除率

- 一、精製糖、角砂糖、棒砂糖
- 其他類似ノモノ(骨炭)
- 瀘過又ハ稅務官署ノ承認シタル之レニ代ルヘキ方法ニ依リタ

ルモノニ限ル

砂糖

イ、和蘭標本色相第十一號

未滿ノモノ 每百斤三圓三十七錢

ロ、和蘭標本色相第二十二號

未滿ノモノ 每百斤五圓三十三錢

砂糖

イ、和蘭標本色相第十一號

未滿ノモノ 每百斤二圓五十六錢

ロ、和蘭標本色相第二十二號

未滿ノモノ 每百斤四圓五十二錢

ハ、和蘭標本色相第二十二號

以上ノモノ 每百斤六圓二十七錢

胡麻子 每百斤五十三錢

荏胡麻子 每百斤五十三錢

二、氷砂糖

- 三、胡麻子油
- 四、荏胡麻子油

- 五、菜子油又ハ芥子油
- 六、小麥粉(末粉ヲ含ム)
- 七、麥酒
- 八、醋酸
- 九、硫化染料

- 十、銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、燃合線、筒、管又ハ其ノ製品

- 十一、眞鍮又ハ青銅ノ塊、錠、條、竿、板、線、燃合線、筒、管

菜子又ハ芥子 每百斤五十四錢

小麥 每百斤二圓五十錢

麥芽 每百斤三圓六十四錢

醋酸石灰 每百斤五十五錢

石炭酸 每百斤二十一圓五十九錢

クロールベンゾール

又ハダイナイトロク

ロールベンゾール 從價三割五分

銅ノ塊又ハ錠 每百斤九圓四十五錢

銅ノ屑又ハ故(改造用)

ノミニ適スルモノ) 每百斤九圓四十五錢

銅、眞鍮又ハ青銅ノ塊

製造免稅

二、織物

家蠶糸

從價二割五分

(2) 法律ニ指定スル物品ノ製造ニ使用スルモノ(製造免稅)

定率法第九條第二項ニ輸入原料品ニシテ茶鉛厚〇・一七ミ
リメートルヲ超エサル亞鉛薄板又ハ命令ヲ以テ指定シタ
ル油又ハ油糟ノ製造ニ使用スルモノニハ命令ノ定ムル所
ニ依リ其ノ輸入稅ノ全部又ハ一部ノ免除(又ハ拂戻)ヲ爲ス
コトヲ得_下アルカ之ナリ。左ニ命令_前大正十年勅令第
二三八號ノ規定ニ依リ製造品名、輸入原料品名及免除率ヲ
表記スヘシ。

製造品

輸入原料品

免除率

一、茶鉛

鉛ノ塊又ハ錠

每百斤五十四錢

二、厚〇・一七ミリメートル

ルヲ超エサル亞鉛薄板

亞鉛ノ塊、錠又ハ粒 每百斤四圓五錢

三、油

落花生油

落花生

イ、脱殼セサルモノ 每百斤一圓二十五錢

ロ、其ノ他 每百斤一圓八十錢

四、油糟

イ、大豆油糟

大豆

每百斤七十錢

ロ、胡麻子油糟

胡麻子

每百斤十一錢

ハ、荳蔻子油糟

荳蔻子

每百斤十一錢

ニ、菜子油糟又ハ芥子油

菜子又ハ芥子

每百斤四十五錢

前二項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニハ輸入ノ
際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得ヘシ。(第
九條I)。其他手續ニ就テハ大正十年五月三十一日大藏省
令第十八號關稅定率法第九條施行ニ關スル件ヲ參照スヘ

造船材料免稅品

(五) 船舶ノ建造又ハ修繕材料タルコトヲ條件トスルモノ(造船材料免稅品)

定率法第十條ニ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル鐵鋼材、艤裝品、艤裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得トアルカ之ナリ。命令(大正十年五月二十八日勅令第二百三十九號)關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件ノ規定ニ依レハ(一)鐵鋼材(船體用機關用又ハ艤裝品用ノモノ)鋼塊及鋼片(鍛造用ノモノ)條及竿(テ)形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレードインダラ含ム)板、筒及管(鑄タルモノヲ除ク)(二)艤裝品、操舵用テレモーター及テレモーター付操舵裝置、水壓式支水隔壁戶及其ノ裝置、ウエリン式ボートダビット及其ノ裝置、クレート式消毒裝置、クロノメーター、厨房裝置、洗濯裝置(三)機關部

分品、タービン用ノフオージドインゴット、フオージドディスク、フオージドリング、ホローブルーム、ロートドラム及エキスパンションリング、コルゲートッドボイラー、フオーネステューブ、ハウデン式フオーネスフロント、マツクネール式ノマンホールドア及マンホールドアサツドルプレート(四)新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品ニシテ遞信大臣ノ認許ヲ得タル艤裝品、艤裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラル、モノカ免除ノ特典ヲ受クルモノトス。

以上ノ外定率法第七條第十九號ニハ本邦ヨリ出漁セル船舶ヲ以テ捕獲シタル魚介類、海獸、海藻、其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ工程ノ簡單ナルモノ但シ當該船舶又ハ之レニ附屬セル船舶ヲ以テ輸入シタルモノニ限ルト云フ規定アリ。

猶定率法以外ノ法律又ハ條約ニ於テ免稅ヲ認ムルモノニ前掲米穀